



獨度涅烏斯草木譜

初稿本

洋学文庫  
文庫8  
F 4  
9





三十二章抄 後加茂 地天へいんこ  
三十三子比 フトリコ  
續断

初編才四套 下是直初部終

獨度涅烏斯草木譜

初部第五卷

十三

共十四枚

惣計 才一ア口ウ子ヨリ  
北ト一ヒ子一テヒ  
百三十九章也

下



第二十二章

陰地蕨一種

蝦夷地カケラニ  
産スルコト  
ハビシタ

ケレイニ、マリーニコロイ止一名「ロナリア」

形状

此草ハ唯一葉ヲ直立セル細軟滑沢ナル圓莖ニ生スル  
ノ其葉厚ク滑ニシテ兩側ニ五或六ノ深缺裂アツテ数葉  
ノ一莖ニ列次スルガ如ク其毎片差圓半月様ノ如ク見ユル  
ナリ莖ノ半。葉本ノ邊ヨリ又一ツノ細軟莖ヲ抽テ其梢ニ  
小ナル葡萄状ノ攢簇セル花ヲ着ク此花登スル時少シク觸動  
シ若クハ微風スレハ細粉トナリテ飛散ヌ其子ハ攢簇セル  
小苞中ニ聚リアリ根ハ唯鬚ノミヲ以テス

出處

此草ハ山丘ノ深谷或ハ曠原瘠地ニ生ス



**時候** 此草ハ四月末ヨリ五月六月ハアリ其他時ハ之ヲ求ルモアルナシ

**稱呼** 羅甸ノコナリアト名クルニハクシノ稱ヲ加テ「子ルドイツ」ニケレインマンコロイドトス此ニ由テロナリアマヨル即チ「ゴロートマンコロイド」ト名クルヘミヲニテト區別ス又此ヲ「ロナリアボトレイチ」ト稱ス其花實ノ葡萄状ナルヲ以テ「ドロイファクテハマールコロイド」トモ謂フベシ「ギリール」ニヘミヲニテト名ク「ホークドイツ」ニ「モンカラウ」ト云或ハ「マンドロンフェイント」ト云「ブバビテル」ニハ前ノ如ク「ケレインマンコロイド」ト云「フランソイセン」ニ「タウ」ト云「ロナリ」ト云「ホーヘル」ニ

**性** 寒ニシテ燥クシク収斂ス

**功能** 此草ハ殊功アル治創茶トス多ク之ヲ新ナル血ヲ帯ルノ創傷ニ用ユ又經血ノ暴泄ヲ止ム赤痢ニ最良ナリ銷鍊家此ヲ功アリトシ多ク用ユ

**附考** 子リア「マンコロイド」ノ名アル諸種ノ草ナリ銷鍊術ニ尤モ求ル所ナリ其中ニモ此「ケレインマンコロイド」ハ其功其状最モ奇ニシテ貴トス此草園林ニ多ク生セシメバ多ク用ユルヲアラント欲スレ氏然氏此草多ク生セズ人ノ之ヲ繁植セシムルヲ難シ○「ケレイン」ロナリア即チ「マンコロイド」ノ枝アルモノ此ハ「コロウ」ノ説ク所ニシテ「ロナリア」ニノルヲモサト名ク此ハ其根ヨリ一テ枝即チ葉ノ附タル「ワイキ」又ハ



枝分せん葉トモ云フヘキモノアリテ「ケレインマインコロイド」ニ似タルノ  
多クノ葉ヲ着ク是氏夫ヨリモ厚ク長シ又淡緑或黄ニ近キ色  
ナリ初メ出ル枝ノ次ニ生スル枝ニハ微ナル毛茸様ノモノヲ被リ第一枝  
ヨリモ湿润ナリ此枝ノ本ヨリ脂滑ナル莖ヲ抽キ「ケレインマインコ  
ロイド」如キ葡萄状ヲ着ク但夫ヨリモ大ニシ数多ク或ハ三葉ヲ  
聚メ掛ク根モ「ケレインマインコロイド」如クナレ氏少シ太シ「スレミン  
ゲル」ニシテ之ヲ「レクテルウイテル」ト名ク是「ゾフプレクトク  
リコマチス」ノ義ナリ其根或ハ黄ナルモアリ○又一種ノ枝アル  
ケレインマインコロイドヲ「カメラリウス」ガ「エングラ」ニ於テ見シモノ  
ナリ是故今人此ヲ「ロナリア」ニラモサアルテ「ト」ト稱ス○「ブーシ

コロイド」ハンデウセイセハン「アブビイン」ハ此モ亦初月様ニ似タル分裂セル  
葉アル草ナリ「サホ」ニノ谷ニ生ス三月ニ於テ屈曲セル灰色ノ木根  
様ノ根ヨリ生シ軟葉「ロムセ」ニユルケルノ初生ノ葉ニ似テ「タラス」  
ヘ「テラウキ」ノ葉ノ大ノ如シ「ロベル」云或ハ此ヲ「ロナリア」マ「ゴリ」云  
「ラ」ニト名ケ「イタリ」ニシテ「ロナリア」マ「ギアラ」ト云其花  
及子ハ彼モ見ルナシト○**稱呼**「ケレインマインコロイド」「イタリヤ」ニハ  
「ロナリア」ニシ又「ロナリア」デルガ「ラ」ホ「」又他所ニ於テ「ヘガ」ル  
ト云銷鍊家ノ名クル野ナリ○**功能**此草ハ「インテルグル」及  
「アウテル」スト「ゾ」ノ功能ト全ク同シト考エラレ此ニ由テ其諸病ニ良  
効アリ且内部ノ損傷ニ奇功アリ○幼児人「ゲ」ニテ「ウル」ト「ヘ」トニ「モ



移奪ス全草ヲ末トシヤクシ酒ニテ服ス婦人ノ崩漏帶下并  
 ニ赤利ニ於テ良ナリ○此草ノ味ハ甚ク燥キ且滋瀉ナリ是故ニ  
 「ケシケケルトヘイ」ト最モ稱用ス之ヲ内服外用ス或云其味スライ  
 ケシノ如シ○肝病ヲ治スルニ稱奪ス○此葉ヲ油ニ浸シ其硝子  
 ヲ日輝ニ置キ裂スル油上ノ諸症ニ使用ナリ○或云此草ノ子  
 ヲ馬牛之ヲ食ハハ勿クナ腫脹シ斃ル此時ニ人其草若クハ葉ヲ之  
 ニ与フレバ其害自ラ消除ス此畜モ危ラ免ルト「ゲス子ケルス」ノ書ニ  
 記ス○鎖鍊家此草ヲ其奇術ヲナシ且「水銀メリキ」ヲスラ凝ラス此  
 草他ノ諸草ヨリ功力ノ勝レルヲ説ク

第二十三章

蔓豆菜  
 ムマノミツバ

「ガニケ」

**形状** 此草ハ根ヨリ細莖ヲ生シ滴ク圓ク深ク袂裂シテ五分  
 ル是ヲ以テ葡萄ノ葉ニヤシク似タリ杜氏夫ヨリ甚ク小ナリ其色  
 「モエギズイングル」ト平滑ニシテ周圍鋸齒アリ葉角ハ赤ヲ帯フ此間  
 ヨリ「スバスバ」子或一尺行ノ莖ヲ抽キ直立シ根ニ近キ所ハ赤色ヲ帯  
 フ其尖ニ「モス」トチハ小球ヲ着テ花ヲ登ス小ニシテ白色ナリ其  
 實ハ小ニシテ圓ク「キリス」トスノ如ク枯レバ之ニ觸ルハ衣ニ着キ  
 其根ハ頭ハ頗ル肥大ニシテ尾ハ鬚ヲナス  
**出處** 此草ハ常ニ林中及他卑陰ノ地ニ生ス但ニ好テ肥澤ノ土  
 湿润ノ處ニアリ人之ヲ植テモ亦繁植ス



**時候** 五月六月ニ花サキ其後實ル葉ハ終年緑ニシテ又シ  
寒ニ破ラレズ

**称呼** 此草羅旬ニ「ガニキュラト」稱シ或ハ「ヂアペンシア」<sup>ト云</sup>「ホーグドイワ」  
及「ゾーグドイワ」ニハ「ガニケル」或ハ「ガニケル」ト云「フランス」ニハ「セニケル」  
ト云「ベームス」ニハ「Bergheil」ト云。○「ガニキュラト」ト云フハ「ロウエルリ」ト云  
創治スルニ良効アルヲ以テナリ此他ニ「ガニキュラト」ト名クル草ナリ即  
チ「ロウラ」デシタリ又「第六卷」ニ出ス及「アウリキュラフリシ」此ハ「フリ  
モラヘリス」ノ種麦ニ属スルモノナリ

**性** 味ウシク苦ク清ル且清潔ニシ収斂強壯スルガ故ニ其  
性温ニシテ燥ナルト第一度ニ在リ

**功能** 此草ノ液ヲ内用外貼ニテ諸創傷ノ内外ニ在ルヲ治  
ス○水或酒ニテ煮テ服シテ吐血及赤痢ヲ治ス○此ヲ水或ハ  
酒ニテ煮テ諸惡瘡汚穢ヲ清潔ニ洗滌ス○此ヲ水ニテ煮テ  
布着タハ外傳劑トシ寒腫及寒ニ因ル諸患ニ用ユ○此  
ヲ煎湯トシ諸創傷ノ人ニ飲シム治創飲ト名ク

**附考** 「ロウエルリウス」此「ガニキュラ」ヲ創ヲ治スルノ良薬トスルモ  
然レ之ヲ記スルト「ガニケル」差アリテ我ホ云フ所ニ異ナリ且彼之ヲ「ラ  
ンキユル」ト「ハ子」ト止ノ種麦ト謂ヘリ○此根外面黒裡面白  
シ暖固ヨリハ寒土ニ能生シ其根及葉モ長大ナリ其根及葉  
ヲ指ニテ採ク之ヲ舌ニ置クニ没薬ノ味アリ○此ニ説ク所ノ「ガニ



キユラト全ク異ナル諸草ノ他本草家ノ書ニ載スルモノ「サキユラ」ノ  
名ヲ命スルモノ多シ即チ「サキユラ」ナリホリ「ア」是ハ「カルタミ」子ノ葉ニ  
属ス「サキユラ」ヘ「ナ」即チ「ヒクシウス」ノ「サキユラ」イフケ「母」ハ「エルレボ  
リ」スニゲル又「ズワルト」ニ「スコロイド」ノ一種ニ属スルモノナリ○一種ノ根ク  
深ク鉄裂セシ葉「ア」ツテ「サキユラ」ニ似タル草アリ是ハ「カレイ」シヘ  
イラタ一名「ゴルト」セノ種ニ属ス又「ゴロシウス」ノ書三卷十卷十ニ  
「サキユラ」モン「タ」ト之異草ヲ載ス又次ノ十一卷十ニ「サキユラ」モン  
タラアルテ「ト」名クルモノ、刺鉄花アルモノヲ載ス此氏彼ハ或ハ「サ  
キユラ」ギ「ツ」タ又「サキ」シ「フラ」ガ「サバウ」チ「カ」ト名クル「サキユラ」アル「ピ」  
モ其同種ナルヲ以テ「アウリ」キユラ「フリ」ニ於テ記載スベシ○「ハビ」ウス

コリユムナハ「サキユラ」ヲ以テ第三ノ「シ」テリ「チ」ス「ト」謂ヘリ○「ホ」ン  
ガ「レ」ハハ此諸種ノ「サキユラ」具形状ノ同シカラザルモ皆之ヲ「サキ」コ  
ルト名クル「イタリ」アル人此ヲ「キン」セ、ホリヲ「マ」グ「ギ」ル「ト」名クル又  
「ゴ」ロ「ト」ヒ「ゲ」ル「コ」ロ「イ」ト「ニ」其葉ノ五裂セシヲ以テナリ○「イタリ」  
アルニ於テ此草ハ「イ」フ「ロ」ン「ゲ」ル「コ」ロ「イ」トノ功ヲナスト云或云「セイ」チ「ア」ウ  
及「セ」チ「グ」ウ「ン」ノ功猶多ク同シト○「サキ」ケルノ液腎ノ傷及  
傷損ヲ治ス○「ロ」ウ「リ」ス「云」フ「ラ」シ「ケ」レ「イ」キ「ニ」於テハ此草ヲ得レバ  
瘍医ヲ待「ナ」シト云○此ヲ煮タル湯着クハ此液ヲ飲メハ傷損  
ヲ治ス或ハ之ヲ春キ煮テ具患處ニ貼ス○此葉及根ヲ水及  
蜜ヲ加ヘ煎服シテ肺病ヲ治ス又葉煎及咽喉ノ潰瘍治穢



ニ此ヲ用テ含漱ス○此草ニ花モ實スベキノ功アリ如何トナレバ  
創傷ヲ治シテ且別ニ殊能アツテ射中ノ瘀穢食物ノ患処ニ  
陥入スルノ害ヲ防禦スルガ故ナリ○或云ガニケルニセ子グルリニ  
及「アルルル」テ此ノ功ヲ有ツ殊ニ吐血及下血ヲ止ム又體中ノ傷  
損創痍ヲ治スルニ撒糸膏葉ヲ須タス此葉及根ノ液ヲ飲  
服ス○此乾葉ヲ末トシ用テ前ノ諸症ニ便良ナリ○此草ノ  
創ヲ瘡合シ肉ヲ附着セシムノ功ハ人切斷セル肉ヲ此ニテ蓋ル時ハ  
其膏片相合シテ未タ割斷セザルモノ、如シ「ウエーグズ」<sup>葉</sup>及「アール  
タル」<sup>葉</sup>モ亦然リ此ニ由テ明徴スベシ

第二十四章

「セイシナナ」一名「アルシミル」

此草ノ莖ハ太抵ハ寸或ハ二尺ノ長サ圓ニシテ多葉ヲ分チ粗  
糙毛茸ナリ、常ニ地ニ攤シ此ヨリ直立スル枝ヲ彼此ニ起ス  
根ヨリ直ニ生スルノ葉ハ莖ニ着テ生スル葉ヨリ大ニテ濶ソ  
圓ク而レテ周縁ニ挺出スル角ワリ太抵八角ヲナス周圍鋸齒  
アルヲ鋸ノ如ク「マル」<sup>葉</sup>ニ似タリ杜氏夫ヨリハ硬ク皺縮シ之  
ヲ見ルニ夫ヨリ向シ特ニ初出ル時ハ皺襞アリ時ヲ経テ自ニ伸  
テ全ク廣濶ヲナス其枝ノ端ニ小ニシテ攢簇セル「グレン」<sup>葉</sup>或  
「ガラスフル」<sup>葉</sup>ハ花ヲ登ス花後細小ノ子苞ヲ着ク根ハ一掌ノ  
長サニシテ一指ノ太サアリ外ハ黒ク又ハ褐色多ク鬚根土



中ニ入ル

**出處** 草多キ湿润ノ曠野或ハ溪谷ニ産ス其他家ナキ荒  
地ニモアリ

**時候** 此草ハ五月六月ニ花サキ終年緑色ナリ其根ハ冬ヲ  
堪ユ

**称呼** 羅甸ニ「アルキミルラ」及「アキミルラ」(ト名ク)或ハ「ステルラリア」ト云フ  
其他ノ「アステルアチキユ」ト名クルモノニモ称ス「ホーグドイワ」ニ「セイ  
ナーウ」又「ウシシヌスト」又「ウシシタペシ」ユニセル「フラーウ」ニ「ミンテル」及  
「ゴロフトサニケウ」ト名ク或ハ其後羅甸ニ「フランタル」ヲニス「コペス  
レラニス」及「サニキュラマヨ」ト名ク此邦ニ於テモ「ホーグドイワ」ノ名ニ

從ヒ「セイシナア」ウ及「セルフラーウ」ウニ「ミンテル」ト云「フランケレイ」ニ  
「ロイド」ウ「テリシ」ウト云「エンゲラン」ウニ「ラデー」ウニ「ミンテル」ト云○此草  
古人ハ知リナシ或ハ直生<sup>チヂク</sup>ノ「レラントポヂュム」ト謂フ是「ホーグドイワ」ノ  
名称ニ因テ誤リ考ル<sup>真</sup>「ホーグドイワ」名然<sup>真</sup>氏直生<sup>チヂク</sup>「レラントポヂュム」  
ト大ニ別ナリ

**性** 此草ノ性功ハ「サニケル」ト全ク同シ但収溜ノ力多ク乾燥スルヲ  
強シ

**功能** 此草諸創傷ノ「サニケル」ノ功アルニ用テ良ナリ○經血ノ過  
崩ヲ止ム○此ヲ春碎シテ婦人処女乳上ニ置ケハ乳ヲ硬固ニシ  
膀胱満腫セザラシム



〔附考〕此草多ク山アル處ノ湿野粘膏ノ赤土ニアリ」小黃ノ子アリ  
リ「ウル」ノ子ヨリ大ナラズ小褐色ノ苞中ニ収ム「コロシウス」云白花  
ルモノヲ見タリト○「ハリウス」ユルデニス此ヲ「トロシウス」ト名ケ「イタリ  
ア」ニ「ステルラ」ト名ク○此草ノ異種「カロリス」スコロシウスニ記  
載ス「プタヘイル」ト又「セー」ヘンブラドトト名ケ或ハ「トルメンチラ」  
カンデダ」又「イワテトルメチル」ト名クルモノアリ是モ亦「セイナアーウ」  
ノ一種ナリト予之ヲ此ニ附載スヘシト思フ此其葉深ク缺裂スル  
「セイナアーウ」ヨリ甚タシキモ其性功ハ甚タ差別ナキヲ以テテリ」其草  
根ヨリ二三ノ莖ヲ生ス圓ク硬ク少シク節アリ大抵一尺許ノ高サ  
此ニ六七或其餘ノ深裂莖ニ至ルノ葉灰色或銀色ニ近キ色

ナルヲ着ク其葉及全草ノ味乾燥シ収清ス枝梢ヲ攪蕪ス  
小花ヲ查ス「ブレイ」フボウノ花ニ似テ小ミテ白星点アリ根ハ肥  
テ一咫ノ長サ外面黒シ此花「スパ」ニ於テ五月ノ比ヨリ先  
シ○「セイ」チ「ハ」婦人ニ於テ之ヲ貴ク其不孕ヲ治シテ産セシムル  
爲ナリ即チ此草ヲ乾シ末シ二十日間之ヲ酒或「ウ」ニテ一七ツ、續服  
スベシ○或ハ謂フ此草ハ「サ」ニケルヨリ清涼ナリ是故ニ痛ヲ甘解シ割  
瘍ノ燃熱ニ外貼スルニ要用ス○外科此「ゲ」レ「ウ」ト「ヘ」ト及内  
部傷損ヲ治シ外部ヲ瘡スニ用ユ○此乾燥収清スル功アル故ニ  
白帶下ヲ治シ且子宮ノ多水液トリ精ヲ及流浮出し胎ヲ受ルヲ  
降クル水液帶下ニ尤モ採用ス○此ヲ蒸餾セル水白帶下ヲ治



スルニ丹服シ猶海綿ニ浸シ外醜スベシ○此水ノ肉ヲ収積スル  
功及皮ヲ強固ニスルガ為ニ既ニ破産女子水ヲ以テ之ヲ  
黄タルニ治灌スル數日此ニ因テ處女ト見セシム○又女子乳  
房ヲ硬固シ圓ナラシムルニ此草ニ已ホシスチス及乾キタル「コロセン」  
「パールステールドコロイド」<sup>パール</sup>「アユイン」ヲ加ヘ用ス○銷鍊家此ヲ用テ  
水銀ヲ凝結スルヲ知<sup>要ス</sup>彼<sup>要ス</sup>實ニ此ヲ能クナスモ其利ヲ得ルガ為  
ニ人々之ヲ知ラセヨク欲セズ

### 第二十五章

「ハイデンスシンドコロイド」及「ヘルバドリア」

**品類** 此草ニ二種ノ形状性功相似タルモノヲ奉ク第一ハ「ワリ  
ダゴサラセニカ」或「ハイデンスシントコロイド」ト名ク第二ハ「ヘルバド  
リア」ト名ク

劉寄奴  
漢種

**形状** 「ワリダゴ」一名「サラセニカ」又「ハイデンスシントコロイド」又「ワリ  
ダゴサラセニカ」ト名クモノハ三尺許ノ高サ圓ニシテ管ヲナスノ莖  
ニシテ其色褐色ニシテクモリヲ帯ヒ根ニ近キ處黯赤ナリ葉ハ  
淺色滑沢長ク闊ク末尖リ「イルゲンブラーデ」又「ゲレーン」ト名ク  
キノ葉ニ似タリ然レ夫ヨリ大ナリ兩側ニ細鋸齒アリ此葉  
其莖ヨリ先テ根ヨリ生シ其後莖上ノ袖キ其本ヨリホマテテ  
如此ノ葉ヲ以テ着ク莖梢ニ多ク小黄花ヲ登シテ鬚頂葉ア



リ其熟スルトキハ微細トナリ花散ス根ハ多鬚アリ○別種  
キレラン「ヘルバドリ」ト名クル眞形「ヘイデニス」シンドロイドト甚々似たり但支ヨリ  
長ク高ク總テ大ナリ又長闊ニシテ大リタル葉厚ク滑澤ニ  
内側鋸齒アリ總テ前ヨリハ粗大ナリ莖肥テ六七尺ノ高サニ  
至リ此ヨリ枝ヲ分チ其末ニ小ナル花ヲ着ク花心ニ黄トシ小球  
アツテ「ダライイケン」区ヲ聚メ黄ナル瓣ヲ着ク此花其後毛茸ノ如キ物トナリ  
風ニ花散ス根ノ鬚ハ塊結セル所ヨリ出テ土中ニ入り或ハ傍ニ蔓シ  
此ヨリ新芽ヲ萌生ス

**〔出處〕**「ヘイデニス」シンドロイドハ好テ陰湿ノ處ニ生ス「ドイツ」ラントニ多ク  
其近キ邦ニモアリ即チ林中涅澤等ニ生ス○「ヘルバドリ」ア「モ」又

右ノ如キ処池渥或緩流スル水ニ傍タル処殊ニ「フロヘンケン」及ヒ  
「ラングエドク」ニ能生ス「ホーグ」及「チーデル」ドイツニハ人ノ之ヲ園  
中ニ植テ遊息スル他ニハ見ルコト無シ

**〔時候〕**此兩種共ニ七月八月ニ花ヲ發ス或ハ此ヨリモ早シ

**〔稱呼〕**第一種ハ「チーデル」ラント「ホーグ」ドイツニハ羅甸ノ「ソリタゴ」サラセ  
ニカ及「ゴソリ」ダト稱ス又「チーデル」ドイツニハ「ヘイデニス」ラント「コロイド」  
ト云「ホーグ」ドイツニハ「ヘイデニス」ラント「カラウ」ト云或ハ羅甸ニ「ヘル  
バドリ」ト名クル「フランス」イセシニハ「ドイツ」ノ名ニ從ヒ「ゴソリ」ルデ「サ  
カシ」子ト云○第二種ハ「フランス」イセシニ於テ羅甸ノ「ヘルバドリ」ア  
ツ称シ又「フランス」ニ「ヘルベ」デ「タル」ト云「ギユル」デン「コロイド」ト謂フナリ



「ホーグ」及「チーデル」ドイツニハ「ヘルバトリア」ヲ名ヲ稱シ他ノ異稱ヲ与ヘズ其土ニハ此種ハ稀<sup>品</sup>ナリトスレバナリ○此兩種他本草家昔ハ「バナセスセイロニウム」ノ種トス「アプレイウス」云「アラントラ」ルテ又「ヘレニウム」ト云フハ<sup>直生</sup>「バナセスセイロニウム」ナリ即チ我書ノ十一卷ニ載ス「テラフラスチウス」及「プリニウス」ニ「バナセスセイロニウム」ハ「ラパチウム」ノ葉トハ小ヨリ大ニシテ粗糙モ草アレトモ全ク「ヘレニウム」<sup>即チ</sup>「アラントラ」ルテ此ノ葉ノ如シト「ゲラスチウス」及「ニカンデル」云「バナキスセイロニウム」ノ葉ハ「アマラキウス」即チ「フリレイ子」ノ葉ニ似タリト如此チレハ其事明亮ヲ得ズ

**性功**

「ヘイデニス」シンドコロイドハ創ヲ治スルニ多ク用ユ出血セ

新創ニ良トスルノナラズ旧創腐壞アルニモ之ヲ清潔ニシ瘡スナリ○此葉ヲ乾末シ創ニ搽シ或ハ油脂ニ合シ用ユ又生葉ヲ油ニ煮用ユ○諸瘡瘡ヲ清潔ニシ瘡ニ諸惡穢腐臭ノ膿瘍ヲ治ス○諸破裂刺傷腫<sup>腫</sup>打<sup>打</sup>等ニ瘀血ヲ清除分利スルニ湯トシ飲服ス○此血湯肝胆脾ノ閉塞ヲ開キ黃疸及<sup>及</sup>腎<sup>腎</sup>雷<sup>雷</sup>ヲ治ス○又口中ノ汚穢惡臭及<sup>及</sup>潰<sup>潰</sup>爛<sup>爛</sup>及<sup>及</sup>咽喉ノ膿瘍ニ含漱ス此ニ玫瑰露ヲ加テ尤モ良ナリ○

**附考**

「ヘイデニス」シンドコロイドハ其花ハ「ユルテ」ル「デー」ノ花ト相モ相似タリ其實ハ「ゴニ」ノ子ニ似タリ「ヘイ」子<sup>子</sup>又「ガラセイ子」ノ



名ヲ得ルハ此草ノ創シ治スルヲ以テナリ○「ヘルバドリア」ハ或ハ「  
デニコロイド」ト名クハ「ゴロイトインテラグロ」  
「ロメキス」及「ヤコバア」  
黄花「チリポリユ」ノ種ノ葉ニ似タル葉ナリ「ロヘル」ハ「アリウス」  
ノ「パルナセユム」ナラント疑フ「ゲイセルレイキ」カ「レイエ」ノ長官「カピタイ」  
シノ「アンブレア」ドリ「ア」ノ名ヲ栞セザルハ「テングツ」ドクニ流シ「  
シクヘルバドリ」アト名ク「レバナリ」即チ「ギニル」テル「コロイド」ノ黄花ニシ  
テ治創ノ功アルモノヲ指ツナリ「此草ノ根ハ移シ植ルノ根大ナリ」  
花ハ「コロイスコロイド」名ゼ「チリポリユ」ノ花ニ似タリ又「リモニ」  
ト大ニ相似タリ○「ギユル」デ「ユ」ニ「ソリ」ダハ此草ト大抵同シト云  
モ「キリサン」テ「モ」ムノ種「麦」ヲ以テ記スルヲ好トス○「ハイ」テ「ス」シ「ド」

コロイドハ其性燥殆ント第ニ度ニ至ル又温ナラズトセス其味ノ  
苦シテ収瀉ナレバナリ○「ハイ」テ「ス」シ「ド」コロイドハ治創ノ良薬ニシテ  
内服外用スベシ又肝ヲ強壯ニシ水腫ノ初ヲ防ク○軍士多  
ク此草并ニ「ヘルバドリ」アヲ用ユ此モノ缺ルニ逢ヘハ彼ヲ取用ス

第二十六章

創製奇種

「ギユル」デ「ン」ル「ー」デ

品麦「ソリ」ダ「ゴ」サ「セ」ニ「カ」及「ヘルバドリ」アノ類ニ「ギユル」デ「ン」ル「ー」デ  
モ算入ベシ此ニ二種アリ一ハ其葉ノ鋸齒ナキモノ又一ハ  
葉ノ鋸齒アルモノナリ



**形状** 第一尋常ノギユルデンル<sup>ト</sup>デノ形状「ヘーデニス」<sup>ト</sup>ドコロイ<sup>ト</sup>ノ形ニ少シク似テ個ク長ク或ハ全ク鋸齒ナク或ハ少シク鋸齒アル葉アリ然レ彼ヨリ短ク色モ褐色又帯黒ナリ此葉初メ根ヨリ生シ其後莖ニモ周子ク生ス第二種ノ葉ヨリハ狭ク長シ莖圓ク赤色ヲ帯ヒ一尺半許ノ高サ兩側ニ枝分具梢ニ小花ヲ着クル<sup>ル</sup>整列ニシテ<sup>赤</sup>ア<sup>ル</sup>区<sup>ニ</sup>様ニ似タリ其色金黃終ニハ微細トナリ飛散ス根ハ褐帶黒ニシテ兩側ニ鬚アリ○第二種ハ鋸齒アル葉ナリ其他第一種ト異ナル<sup>ル</sup>アル<sup>ル</sup>ナシ

**出處** 此草多ク林及山并ニ「ヘツ」<sup>ト</sup>及「ロムベルク」<sup>ト</sup>ノ処ニアリ

**時候** 此草ハ大抵八月ニ花サク根ハ冬モ残りアレモ葉莖ハ共ニ枯ル

**稱呼** 此草羅甸ニ「ヒルガアウレ」<sup>ト</sup>云此草ノ花ノ金色「ギユルデンル」<sup>ト</sup>デニ似タルヲ以テナリ是故ニ「チーデンドイツ」<sup>ト</sup>ニ亦「ギユルデンル」<sup>ト</sup>デト名ク「フランソイセン」<sup>ト</sup>ニ於テ「ヘルゲテ」<sup>ト</sup>云「ホーグトイ」<sup>ト</sup>ニハ「ヘツデルカラウ」<sup>ト</sup>ト云第一種ヲ尋常通名ノ「ヒルカアウレ」<sup>ト</sup>ギユルデンル<sup>ト</sup>デヲ以テ稱ス第二種ヲ羅甸ニ「ヒルガアウレ」<sup>ト</sup>マリギ子。セレナ<sup>ト</sup>ト名ク是「ギユルデンル」<sup>ト</sup>デ葉ノ鋸齒アルモノナリ

**性** 温燥共ニ第二度ナリ清淨シ収斂スル<sup>ル</sup>ヲナス

**功能** 小便ヲ通シ腎ノ結石ヲ驅斥ス石ヲ碎キ粘凝液ヲ



解澗ス此等ノ物尿道ニ過塞スルヲ分利ス此草ノ粘液  
ヲ解澗スルノ良功アルカ故ニ「アルルヂユ」其腎石ヲ碎  
キ腎痛ヲ并解スルヲ稱奉ス○又此ヲ治創飲中ノ藥  
ニ算入ス其諸創傷ヲ治スルコト「ヘイデンス」トコロトノ如ク  
功力アリ故ニ此ト共ニ合セ用ユ

**附考** 初ノ根ヨリ生スルノ葉ハ常ニ地ニ塌シマリ其間ヨリ  
褐色ノ莖ヲ抽キ前ノ葉ノ如ク唯少シク小ナル葉ヲ周ノ  
被ルナリ」此草ノ味「ヘイデンス」トコロト相似タルノ人  
ノ直ニ其同種ト見得ルナリ○「アングイル」此ヲ「ヘルバセリ  
アタ」ト名ク或処ニ於テ其幾許ノ「班」未詳」ト見タルガナリ

「ローベル」ハ謂ラク「アフリニウス」ノ「レウコクラピス」ナラント○  
此草毎々其葉ノ形状大小ニ種々アルヲ見ル其小ナル種ニ  
闊キ葉アリテ夏ノ初ニ花ヲ發スルアリ又大ナル種ニ狭キ  
葉アリ其花甚タ遅キモアリ○又葉色ノ暗緑ナルアリ或  
淡緑ニシテ黄ニ近キモノアリ○此草甚タ收斂シ甚タ乾  
燥ス其石ヲ碎クコト尤モ奇功アリ○諸創及惡性瘡ハ  
燻瘡ヲ治スルニ内用外貼シテ殊功アリ○此ヲ酒ニ入テ  
結石及尿ヲ解通ス又酒ヲ以テ蒸餾シ飲シム○諸ノ聖  
京健ヲ止メ赤利ヲ治シ口中ノ瘍腫ヲ治ス○石ヲ碎キ  
腎ノ閉塞ヲ解澗スルニ要トス」如クハ血ヲ止ルニハ良ト



セズ○此ヲ内服シテ諸創打撲墜破傷及下利ヲ治  
之煨熟流移スル<sup>傷名</sup>ブレイン<sup>名</sup>及口ノ腐蝕ヲ治ス

第二十七章 ヲルレコロイド一名 フルバスコム

〔品名〕フルバスコム一名 ヲルレコロイド二様トス第一ハ白第二ハ黒  
ナリ其第一ハ二種アリ一ハ葉潤ク一ハ葉狭シテヲスコルテ此  
説ノ外ニ其後ガレニユス他一種野生フルバスコム及ヒプロミス一名  
小ヲラレコロイドノ兩種及ヒ又一種「テリール」ト名クル者ヲ誤ク  
此諸種ハ予別ニ記スベシ茲ニ白キ兩種及ヒ黒一種ヲ言フ

① 第一種 白<sup>ヲラレコロイド</sup>ハ根ヨリ大潤ナル葉ヲ生シ「コレ」ノ葉  
ノ如ク但軟ニシテ毛茸アリ灰色ナリ具葉間ヨリ<sup>葉</sup>生ス一ノ直  
莖ヲ抽ク亦軟灰白毛茸ヲ被ル根際ヨリ右ノ如キ葉ヲ以テ相傍ニ  
漸クト狭クナリ而シテ尖ニ終ル其中間ヨリ上マテ周圍ニ多ク<sup>花</sup>化シ  
所ス少シク香アリ五弁相集ル其後ニ小<sup>花</sup>圓房<sup>名</sup>アツテ其内ニ子  
アリ○根ハ長ク一指ノ大ナリ如シ外而黒或ハ褐色ナリ

② 第二種 白<sup>ヲラレコロイド</sup>ハ亦軟灰色毛茸アル葉ニシテ第一種ノ  
如シ但ソレヨリ狭ク小ナリ莖モ亦同ニ然ル或ハ細短ナリ<sup>花</sup>花ハ  
最小稀ニハ白色アリ大抵ハ黄色ナリ根ハ他種ト同シ



③ 黒「ウラルレコロイド」ハ葉裏シテ帯フ<sup>④</sup>毛茸ナクヤミク粗糲ニシテ  
其臭重シ第一種ノ白「ウラルレコロイド」葉ヨリ大ニシテ凋シ莖一莖  
或ニ莖アリ亦前ノ如シ花モ亦黄色或ハ中心ニ莖アリ根モ他ノ  
種麦ト同シ

**出處** 此諸種麦ハ大抵曠原及圃邊ニ沿フテ生シ坑澁堤及こ  
他ノ家ナキ處ニ生ス第一種葉凋キモノ及こ黒キ種ハ常ニ多シ但  
第二種ノ白キ葉狭キモノ稀ニ見ルヲアリ

**時候** 此草ハ七月ヨリ深秋ニ亘テ花ヲ見ル其後子ヲ熟ス然氏  
此草初生日リ二年ヲ経ルニ非レバ花ヲ登スルヲナシ

**異称** 此草羅甸ニ「フルバスコム」ト名ケギリースニ「プロモス」一名「プ  
ログモ」<sup>⑤</sup>藥局ニ「タプシユス」バルバチユス別ニ白花ナルヲ「カンテラス  
レギア」カニテラリア或ハ「ランアリア」ト云「イタリア」ニ「フルバスコム」<sup>⑥</sup>  
ソバルバツソ「イスパニア」ニ「ゴルドロボ」ホーグトイツ」ニ「ウラルクウト」  
「ルツ」ニ「カラウト」「ブレニカラウト」「ロメルカラウト」「リュニヘルツ」フランス  
ニ「ポイルロ」ニ和蘭ニ「ウラルレコロイド」ウラルブライト「レニ」ルールセコロイド

「エニゲルス」ニ「ウイルレ上子」<sup>⑦</sup>「ベームス」ニ「ゲウイスナ」ト云「アヒュレーウス」  
亦「ペークニチス」及「ロータニチス」ト云「バスタール」名ニ「ベニナリス」及「ベニ  
ラ」ト名ケケリ

「ウラルレコロイド」ノ第一種ヲ羅甸ニ「フルバスコム」ラケ、<sup>⑧</sup>ト通称ス  
藥局ニ「タプシユス」バルバチユスト云和蘭ニ「イツテウラルレコロイド」メウテ  
ブレ「デルブライト」<sup>⑨</sup>ト云「ゲヨスコリ」<sup>⑩</sup>「プリニユス」及「ガレニユス」共ニ  
ウラルレコロイド、ウエイフケント云羅甸ノ「フルバスコム」ハミナノ義ナリ第  
二種ヲ羅甸ニ「フルバスコム」アンキユスチユスト云「プリニユス」<sup>⑪</sup>「ゲヨスコリ」  
デス「ガレニユス」共ニ「フルバスコム」マヌト云是ハウラルレコロイドマン  
子ケントノ義ナリ和蘭ニ「イツトウラルレコロイド」メウテ「スマルレブライト」  
「レニ」ト云

第三種ハ羅甸ニ「フルバスコム」ニ「グリユム」ト云<sup>⑫</sup>和蘭ニ「ズワルトウラルレコロイド」ト  
云

**性功** 性燥葉ハサシク<sup>⑬</sup>淨除シ<sup>⑭</sup>消化ノ功アリト「ガレニユス」云フ

**主治** 諸種ノ「ウラルレコロイド」ノ葉ヲ水ニ煮テ諸ノ寒腫及こ眼



燉衝ニ要トシ貼ス○此ニ酒及ク蜜ヲ加ヘテ臭穢燉衝ノ諸  
瘡及ク火熱スル諸瘍ニ貼テ此ヲ治ス○醋ヲ加テ創ニ貼  
シ又テヲスコルテス此ヲ蝎ノ螫傷スル処ニ貼ス○今ノ<sup>諸</sup>醫  
醫此草ノ軟毛茸アル葉ヲ水ニ煮タルモノ痔ヲ浴シ<sup>蒸</sup>スノ腫  
痛挺出アルニ浴シ蒸<sup>蒸</sup>湯シテ良功ヲ見ルト如何トナレハ膏ニ  
具痛ヲ甘解スルノミナラズ猶具痔<sup>痔</sup>乾燥スルノ功ニ因テ消  
除スルヲ為ス○根ハ酸<sup>酸</sup>渋ノ味アリトガレニユスフ諸胃寒  
傷冷毒及<sup>淋</sup>淋<sup>淋</sup>瀝<sup>瀝</sup>痛ヨリ發スルノ諸症ヲ治スルニ良ナリ<sup>テ</sup>ラスコ  
リテス記ス此根ヲ<sup>テ</sup>ル<sup>ル</sup>シ<sup>ク</sup>ノ大<sup>ク</sup>連<sup>綿</sup>懸<sup>セ</sup>ル<sup>下</sup>利<sup>ヲ</sup>申<sup>ハ</sup>ル<sup>者</sup>ニ  
与ヘ服セシムルヲ要トス彼又云此根ヲ水ニテ煮タルモノ内外部ノ  
少シノ傷損打撲腫起ノ部且少シク拘攣<sup>拘攣</sup>搐<sup>搐</sup>掣<sup>掣</sup>ヲ患フルニ尤モ良ナ  
リ又云此水經久<sup>久</sup>欬<sup>欬</sup>嗽<sup>嗽</sup>ヲ治シ又齒<sup>齒</sup>斷<sup>斷</sup>ノ腫痛ヲ甘解シ及ク諸如此  
ノ痛ヲ消除ス○或人謂<sup>謂</sup>テ<sup>テ</sup>ク<sup>ク</sup>此<sup>此</sup>物<sup>物</sup>痲<sup>痲</sup>瘡<sup>瘡</sup>ヲ治スルヲ<sup>腫</sup>腫<sup>腫</sup>入<sup>入</sup>珠<sup>珠</sup>ニ具根ノ  
未<sup>未</sup>タ<sup>タ</sup>老<sup>老</sup>ズ<sup>ズ</sup>未<sup>未</sup>タ<sup>タ</sup>花<sup>花</sup>ヲ<sup>ヲ</sup>發<sup>發</sup>セ<sup>セ</sup>ワ<sup>ワ</sup>ル<sup>ル</sup>ヲ<sup>ヲ</sup>用<sup>用</sup>ユ

口傳<sup>口傳</sup>英<sup>英</sup>ノ<sup>ノ</sup>藥<sup>藥</sup>類<sup>類</sup>  
Dandelion

○此花ヲ少シ油ヲ以テ一二日露<sup>露</sup>下<sup>下</sup>ニ置<sup>置</sup>テ軟<sup>軟</sup>解<sup>解</sup>シ全<sup>全</sup>ク溶<sup>溶</sup>解<sup>解</sup>スル  
ノ時マデニ至<sup>至</sup>ル<sup>ル</sup>醫<sup>醫</sup>此<sup>此</sup>ヲ<sup>ヲ</sup>用<sup>用</sup>テ<sup>テ</sup>痔<sup>痔</sup>ノ<sup>ノ</sup>痛<sup>痛</sup>ヲ<sup>ヲ</sup>甘<sup>甘</sup>解<sup>解</sup>ス<sup>ス</sup>ル<sup>ル</sup>ヲ<sup>ヲ</sup>稱<sup>稱</sup>ス

○<sup>シ</sup>ル<sup>レ</sup>ロ<sup>イ</sup>ト<sup>ノ</sup>別<sup>功</sup>此<sup>此</sup>草<sup>草</sup>ノ<sup>ノ</sup>黃<sup>黃</sup>花<sup>花</sup>ヲ<sup>ヲ</sup>用<sup>用</sup>テ<sup>テ</sup>頭<sup>頭</sup>髮<sup>髮</sup>ヲ<sup>ヲ</sup>黃<sup>黃</sup>色<sup>色</sup>ニ<sup>ニ</sup>ス<sup>ス</sup>コ<sup>コ</sup>ト<sup>ト</sup>シ  
知<sup>知</sup>ル○<sup>プ</sup>リ<sup>ニ</sup>ウ<sup>ス</sup>云<sup>云</sup>或<sup>或</sup>ハ<sup>ハ</sup>北<sup>北</sup>生<sup>生</sup>ヲ<sup>ヲ</sup>ル<sup>ル</sup>コ<sup>コ</sup>ロ<sup>ロ</sup>イ<sup>イ</sup>ト<sup>ト</sup>ノ<sup>ノ</sup>葉<sup>葉</sup>凋<sup>凋</sup>乾<sup>乾</sup>キ<sup>キ</sup>タル<sup>タル</sup>葉<sup>葉</sup>ニ<sup>ニ</sup>テ<sup>テ</sup>  
乾<sup>乾</sup>キ<sup>キ</sup>タ<sup>タ</sup>ヘ<sup>ヘ</sup>イ<sup>イ</sup>ケ<sup>ケ</sup>ン<sup>ン</sup>ヲ<sup>ヲ</sup>纏<sup>纏</sup>包<sup>包</sup>シ<sup>シ</sup>以<sup>以</sup>貯<sup>貯</sup>ス<sup>ス</sup>レ<sup>レ</sup>ハ<sup>ハ</sup>全<sup>全</sup>ク<sup>ク</sup>腐<sup>腐</sup>敗<sup>敗</sup>セ<sup>セ</sup>ズ<sup>ズ</sup>久<sup>久</sup>キ<sup>キ</sup>ニ<sup>ニ</sup>堪<sup>堪</sup>ム<sup>ム</sup>ト<sup>ト</sup>此<sup>此</sup>  
事<sup>事</sup>未<sup>未</sup>タ<sup>タ</sup>明<sup>明</sup>ナ<sup>ナ</sup>ラ<sup>ラ</sup>ズ<sup>ズ</sup>シ<sup>シ</sup>ヨ<sup>ヨ</sup>ス<sup>ス</sup>コ<sup>コ</sup>ル<sup>ル</sup>テ<sup>テ</sup>ス<sup>ス</sup>モ<sup>モ</sup>亦<sup>亦</sup>云<sup>云</sup>ル

附考

此草尤モ人ノ通和スル所ニシテ之ヲ<sup>ル</sup>ル<sup>ル</sup>コ<sup>コ</sup>ロ<sup>ロ</sup>イ<sup>イ</sup>ト<sup>ト</sup>名<sup>名</sup>ク<sup>ク</sup>ル<sup>ル</sup>ハ<sup>ハ</sup>其<sup>其</sup>軟  
柔<sup>柔</sup>毛<sup>毛</sup>茸<sup>茸</sup>アル<sup>アル</sup>葉<sup>葉</sup>アル<sup>アル</sup>ガ<sup>ガ</sup>為<sup>為</sup>ナ<sup>ナ</sup>リ<sup>リ</sup>此<sup>此</sup>物<sup>物</sup>諸<sup>諸</sup>邦<sup>邦</sup>ニ<sup>ニ</sup>發<sup>發</sup>テ<sup>テ</sup>種<sup>種</sup>々<sup>々</sup>ノ<sup>ノ</sup>病<sup>病</sup>ニ<sup>ニ</sup>功<sup>功</sup>用<sup>用</sup>アリ<sup>リ</sup>ト<sup>ト</sup>ス  
ル<sup>ル</sup>所<sup>所</sup>ナ<sup>ナ</sup>リ○<sup>ド</sup>ト<sup>ト</sup>子<sup>子</sup>ウ<sup>ウ</sup>ス<sup>ス</sup>ノ<sup>ノ</sup>此<sup>此</sup>ニ<sup>ニ</sup>記<sup>記</sup>ス<sup>ス</sup>ル<sup>ル</sup>所<sup>所</sup>ノ<sup>ノ</sup>外<sup>外</sup>猶<sup>猶</sup>此<sup>此</sup>草<sup>草</sup>多<sup>多</sup>種<sup>種</sup>ア<sup>リ</sup>ト<sup>ス</sup>  
<sup>ト</sup>ノ<sup>ノ</sup>知<sup>知</sup>ル<sup>ル</sup>所<sup>所</sup>ニ<sup>ニ</sup>任<sup>任</sup>ス<sup>ス</sup>如<sup>如</sup>何<sup>何</sup>ト<sup>ト</sup>ナ<sup>ナ</sup>レ<sup>レ</sup>ハ<sup>ハ</sup>此<sup>此</sup>草<sup>草</sup>ノ<sup>ノ</sup>差<sup>差</sup>別<sup>別</sup>ハ<sup>ハ</sup>其<sup>其</sup>生<sup>生</sup>ス<sup>ス</sup>ル<sup>ル</sup>処<sup>処</sup>  
ニ<sup>ニ</sup>有<sup>有</sup>ス<sup>ス</sup>ル<sup>ル</sup>差<sup>差</sup>別<sup>別</sup>アル<sup>アル</sup>ニ<sup>ニ</sup>起<sup>起</sup>ル<sup>ル</sup>ヨ<sup>ヨ</sup>リ<sup>リ</sup>外<sup>外</sup>ナ<sup>ナ</sup>ラ<sup>ラ</sup>ズ<sup>ズ</sup>此<sup>此</sup>草<sup>草</sup>ノ<sup>ノ</sup>變<sup>變</sup>ニ<sup>ニ</sup>於<sup>於</sup>テ<sup>テ</sup>其<sup>其</sup>区<sup>区</sup>別<sup>別</sup>  
ヲ<sup>ヲ</sup>ナ<sup>ナ</sup>サ<sup>サ</sup>ント<sup>ト</sup>ス<sup>ス</sup>ル<sup>ル</sup>ハ<sup>ハ</sup>無<sup>無</sup>エ<sup>エ</sup>血<sup>血</sup>ナ<sup>ナ</sup>リ<sup>リ</sup>ト<sup>ト</sup>ス○<sup>ト</sup>ノ<sup>ノ</sup>草<sup>草</sup>ノ<sup>ノ</sup>莖<sup>莖</sup>細<sup>細</sup>ク<sup>ク</sup>シ<sup>シ</sup>テ<sup>テ</sup>其<sup>其</sup>葉<sup>葉</sup>ハ<sup>ハ</sup>其<sup>其</sup>莖<sup>莖</sup>ノ<sup>ノ</sup>上<sup>上</sup>ニ<sup>ニ</sup>生<sup>生</sup>ス<sup>ス</sup>ル<sup>ル</sup>ニ<sup>ニ</sup>似<sup>似</sup>テ<sup>テ</sup>  
如何<sup>如何</sup>ト<sup>ト</sup>ナ<sup>ナ</sup>レ<sup>レ</sup>ハ<sup>ハ</sup>其<sup>其</sup>莖<sup>莖</sup>甚<sup>甚</sup>美<sup>美</sup>麗<sup>麗</sup>ニ<sup>ニ</sup>似<sup>似</sup>テ<sup>テ</sup>根<sup>根</sup>ト<sup>ト</sup>葉<sup>葉</sup>ノ<sup>ノ</sup>間<sup>間</sup>ヨ<sup>ヨ</sup>リ<sup>リ</sup>生<sup>生</sup>シ<sup>シ</sup>下<sup>下</sup>ヨ<sup>ヨ</sup>リ<sup>リ</sup>中<sup>中</sup>間<sup>間</sup>ノ<sup>ノ</sup>處<sup>處</sup>  
マ<sup>マ</sup>デ<sup>デ</sup>如<sup>如</sup>此<sup>此</sup>ノ<sup>ノ</sup>葉<sup>葉</sup>且<sup>且</sup>ダ<sup>ダ</sup>シ<sup>シ</sup>ク<sup>ク</sup>小<sup>小</sup>サ<sup>サ</sup>キ<sup>キ</sup>葉<sup>葉</sup>ヲ<sup>ヲ</sup>以<sup>以</sup>テ<sup>テ</sup>被<sup>被</sup>着<sup>着</sup>シ<sup>シ</sup>此<sup>此</sup>ヨ<sup>ヨ</sup>リ<sup>リ</sup>上<sup>上</sup>ニ<sup>ニ</sup>黃<sup>黃</sup>ニ<sup>ニ</sup>シ<sup>シ</sup>テ

○<sup>ト</sup>ノ<sup>ノ</sup>知<sup>知</sup>ル<sup>ル</sup>所<sup>所</sup>ニ<sup>ニ</sup>任<sup>任</sup>ス<sup>ス</sup>如<sup>如</sup>何<sup>何</sup>ト<sup>ト</sup>ナ<sup>ナ</sup>レ<sup>レ</sup>ハ<sup>ハ</sup>此<sup>此</sup>草<sup>草</sup>ノ<sup>ノ</sup>差<sup>差</sup>別<sup>別</sup>ハ<sup>ハ</sup>其<sup>其</sup>生<sup>生</sup>ス<sup>ス</sup>ル<sup>ル</sup>処<sup>処</sup>  
ニ<sup>ニ</sup>有<sup>有</sup>ス<sup>ス</sup>ル<sup>ル</sup>差<sup>差</sup>別<sup>別</sup>アル<sup>アル</sup>ニ<sup>ニ</sup>起<sup>起</sup>ル<sup>ル</sup>ヨ<sup>ヨ</sup>リ<sup>リ</sup>外<sup>外</sup>ナ<sup>ナ</sup>ラ<sup>ラ</sup>ズ<sup>ズ</sup>此<sup>此</sup>草<sup>草</sup>ノ<sup>ノ</sup>變<sup>變</sup>ニ<sup>ニ</sup>於<sup>於</sup>テ<sup>テ</sup>其<sup>其</sup>区<sup>区</sup>別<sup>別</sup>  
ヲ<sup>ヲ</sup>ナ<sup>ナ</sup>サ<sup>サ</sup>ント<sup>ト</sup>ス<sup>ス</sup>ル<sup>ル</sup>ハ<sup>ハ</sup>無<sup>無</sup>エ<sup>エ</sup>血<sup>血</sup>ナ<sup>ナ</sup>リ<sup>リ</sup>ト<sup>ト</sup>ス○<sup>ト</sup>ノ<sup>ノ</sup>草<sup>草</sup>ノ<sup>ノ</sup>莖<sup>莖</sup>細<sup>細</sup>ク<sup>ク</sup>シ<sup>シ</sup>テ<sup>テ</sup>其<sup>其</sup>葉<sup>葉</sup>ハ<sup>ハ</sup>其<sup>其</sup>莖<sup>莖</sup>ノ<sup>ノ</sup>上<sup>上</sup>ニ<sup>ニ</sup>生<sup>生</sup>ス<sup>ス</sup>ル<sup>ル</sup>ニ<sup>ニ</sup>似<sup>似</sup>テ<sup>テ</sup>  
如何<sup>如何</sup>ト<sup>ト</sup>ナ<sup>ナ</sup>レ<sup>レ</sup>ハ<sup>ハ</sup>其<sup>其</sup>莖<sup>莖</sup>甚<sup>甚</sup>美<sup>美</sup>麗<sup>麗</sup>ニ<sup>ニ</sup>似<sup>似</sup>テ<sup>テ</sup>根<sup>根</sup>ト<sup>ト</sup>葉<sup>葉</sup>ノ<sup>ノ</sup>間<sup>間</sup>ヨ<sup>ヨ</sup>リ<sup>リ</sup>生<sup>生</sup>シ<sup>シ</sup>下<sup>下</sup>ヨ<sup>ヨ</sup>リ<sup>リ</sup>中<sup>中</sup>間<sup>間</sup>ノ<sup>ノ</sup>處<sup>處</sup>  
マ<sup>マ</sup>デ<sup>デ</sup>如<sup>如</sup>此<sup>此</sup>ノ<sup>ノ</sup>葉<sup>葉</sup>且<sup>且</sup>ダ<sup>ダ</sup>シ<sup>シ</sup>ク<sup>ク</sup>小<sup>小</sup>サ<sup>サ</sup>キ<sup>キ</sup>葉<sup>葉</sup>ヲ<sup>ヲ</sup>以<sup>以</sup>テ<sup>テ</sup>被<sup>被</sup>着<sup>着</sup>シ<sup>シ</sup>此<sup>此</sup>ヨ<sup>ヨ</sup>リ<sup>リ</sup>上<sup>上</sup>ニ<sup>ニ</sup>黃<sup>黃</sup>ニ<sup>ニ</sup>シ<sup>シ</sup>テ



受スベキサ万香ナル小花ヲ登ス其花各五瓣ニ分レ美華ナルゲ  
ルセニ比ヌ○此草ノ花ノ向キハ六瓣ニシテ黄花ノ如ク出ナラズ  
其子ハ黒色ナリ其根ハ一指大ナリ

○ローベル云「ウロセ」獸名勇私東私 獸部百六葉蛇ト闘フ殆死セントシテ之ヲ取

放テタルコロイトヲ喰ハシム即チ復強壯勇健ニナリテ又海道「ウロセ」ト

闘フコアリ是以テ此草羅甸ニタツクスト名ク即チ此毒ヲ治スルニ

良トス猶「タプシユス」バルバチユスノ名ヲ以テ知ルベシ「フランス人亦之ヲ

「トルクス」ト名ク「ギリケ」ニ「プロミ」或ハ「プログミ」ト名ク此「プロキ

」ハノ辞ハ火把ニ燃ル火炎ノコト、ス此草ノ葉莖燭ノ心トシテ使用

ナルニ因テ是之故ニ吾輩ノ言ニテ「トルセコロイド」ト名ク

○最大ナル白「シルレコロイド」○ローベル云「所甚々美香ノ花アリ」新蜜

蠟ノ如ク香ハシ或ハ「ブレイキゲロウ」ノ色アリ或ハ雪白ニシテ金黃

色ノ絲條葉其中央ニアリ○其葉ハ廣闊長大ナリ「アラント」本香「シルテ

」ノ状ニ似タリ「長ク白キ毛茸アリテ「ルルコロイド」及「アエナ」ヲロニスノ

如シ○其莖ハ三四或五キユビツスノ高サナリ○其根ハ一指大ナリ

ニテ鬚根アリ○此草「ゾーデルラ」ト及「ロルマンチ」トノ園ニ生ス

但「ロイモン」ト「ランゲード」ト「アインゲランド」トイタリ「」ニ於テ野ニ生スル

ヲ見ル○ローベルノ牝生白「シルレコロイド」、名々種及南邦ノ最

大ニシテサ芳香ナル「シルレコロイド」ハ羅甸ニ「マスシユス」ヲド「ラチユス」、

「ノリチナリユム」、タ「プシユス」、バルバチユス、ヘミナ、ワ「ロレアルボ」イギ

リスニ於テ「シユルレイ」子、ヘ「マレ」ト名ク又最大ナル牝生「シルレコロイド」

枯黄色ニシテサ芳香ナル花アルノ一種ハ羅甸ニ「フルバ」スキユム、マ

キシユム、アルビユム、ヘミナ、ワ「ロレケルユレ」ト名ク

○「シルレコロイド」ノ**功能**此草ノ末少シク下利ス是以テ翁加里西ニ

於テハ此根ヲ以テ熱病ヲ治ス○直腸ノ脱出ヲ收ムルニ用ユ「婦人

香具」及重方此ノ膏及花ト「カイル」花及「マスチキ」ト其ニ毒

キ細ニス

○壯中婦人此白「シルコロイド」ノ花ヲ搾リ取タル液ヲ顔面ノ皴



シ去ルニ用テ此ニ勝ル葉トシトス

○此葉ヲ兩石ノ間ニテ摩シテ膏ノ如シ馬ノ脚ノ創ニ貼スレハ連ニ殊効アリ

○ガレキス云此根酸清ナリ諸ノフリユクセイ<sup>病</sup>及聖京健ヲ治ス

○此花油ハ「シレイ」油ニ入大陽ニ置ク此油<sup>●</sup>皮部ノ諸疾ノ熨衝及腫瘍ヨリ起ルモノニ甚タ要用トス

○向シルコロイドノ根ヲ赤蒲桃<sup>病名</sup>酒ニ煮タルモノ<sup>ト</sup>メリルウシ<sup>ト</sup>下利ヲ止メ治ス△此ニ鉄ヲ浸シタル水ヲ加<sup>煎</sup>テ

○向シルコロイドノ根ヲ赤蒲桃酒ニ煮タルモノノロートメリルウシ及下利ヲ止メ治ス或ハ此<sup>煎</sup>鉄ヲ浸シタル水ヲ<sup>以テ</sup>煮<sup>テ</sup>

○此根ヲ煮タル汁齒痛ヲ甘解スルノミナラズ咽ノ巴且舌後ノ腫瘍ヲ治ス此ヲ温メ含ミ及ヒ漱ク

○里ヲルコロイドノ美黃花ヲ水或ハ酒ニ煮服シテ胸肺ノ諸病咳嗽膿ヲ唾スル者ニ良ナリ

○里ヲルコロイドノ葉トロイテト共煮テ服痛ヲ治スルニ用ユ

○プリニウス云ナルコロイドノ葉關節傷痲脱ニ服用シテ良ナリ其腕及痛ヲ減スルガ故ナリ

○ナルコロイトノ黃花髮ヲ黃色ニ染ムルニ用ユ此ヲ灰汁ニ洗フ

○アピユレイウス云メリクリウス<sup>神</sup>ナルコロイドヲ「ブレイ」スセズ<sup>燒</sup>業ニナシテ「シルケ」<sup>地</sup>ニ行ク人ニ与フ是其「シルケ」ノ魔法ヲ拒キ守ルノ為ナリ

○或ハ此根四日熱ヲ治スルヲ稱ス此ヲ搾リタル液ニ「タラ」グマ<sup>鐵</sup>ヲ

マルヘセイ<sup>燒酒</sup>少許ヲ以テ其想ノ瓮スルノ前ニ与フ人此ヲ三四回用ユベシ

○此葉及葉ノ末「テルメン」テイ<sup>ン</sup>「カミル」レン花ヲ合シテ之ヲ相重シテ直腸ノ脱墜ヲ治ス

○此<sup>葉</sup>「サヒイ」マリオリイ子「カミル」レンブルムト<sup>ト</sup>水ニ煮テ浴洗シテ諸神經ノ寒傷ヲ治ス



○此花ヲ以テ<sup>灰</sup>ウラフテニシテ<sup>灰</sup>揉ル連ニ消除又根末モ亦用ユ

○葉ヲ春キ<sup>灰</sup>中ニ温メ膏ク用ユ<sup>灰</sup>如クカラポーレン<sup>灰</sup>及<sup>灰</sup>ブドズウレン<sup>灰</sup>ニ貼又連ニ之ヲ消解ス

○此草人ノ諸傷ヲ治スル<sup>灰</sup>ニナラズ又<sup>灰</sup>諸獸ニモ功アリ<sup>灰</sup>如何トナレバ<sup>灰</sup>レンテバシリウス<sup>灰</sup>云<sup>灰</sup>べ<sup>灰</sup>レン<sup>灰</sup>其傷キタ<sup>灰</sup>此ヲ以テ治スト

○此葉ヲ醋ヲ以テコロップスウエレン<sup>灰</sup>及<sup>灰</sup>此數ノ腫瘍ニ貼シテ解散ス

○葉及<sup>灰</sup>實ヲ酒ニ煮テ外傳シテ<sup>灰</sup>身體中<sup>灰</sup>刺シタル<sup>灰</sup>諸物ヲ引出ス

○此莖葉ノ汁ヲ外用シテ<sup>灰</sup>痛風<sup>灰</sup>チハノ人ヲ治ス

○此花ニ<sup>灰</sup>雞子黃<sup>灰</sup>並<sup>灰</sup>餅中心<sup>灰</sup>ボレイエノ葉ト合シテ膏ノ如ク用ヒテ<sup>灰</sup>スベ<sup>灰</sup>傷<sup>灰</sup>チニシテ治スル<sup>灰</sup>ニ奇効アリ

○葉ノ汁又ハ<sup>灰</sup>葉ヲ春テ<sup>灰</sup>隔及<sup>灰</sup>暗傷及<sup>灰</sup>打撲傷ニ貼シ<sup>灰</sup>固着シテ一日一夜之ヲ留メ置ク<sup>灰</sup>片ハ治ス又<sup>灰</sup>此法<sup>灰</sup>創傷ニモ用ユ<sup>灰</sup>先ツ酒

ニテ洗淨シテ後前ノ如ク用ユ

○此全草ノ<sup>灰</sup>蒸餾露<sup>灰</sup>花アル<sup>灰</sup>ヲ三ツンセン<sup>灰</sup>晝夜ニ飲服シテ<sup>灰</sup>脚ノ<sup>灰</sup>熱痛風<sup>灰</sup>ヲ治ス<sup>灰</sup>尤モ<sup>灰</sup>利<sup>灰</sup>益<sup>灰</sup>アリ<sup>灰</sup>之ニ<sup>灰</sup>勝<sup>灰</sup>ル<sup>灰</sup>モノナシ又<sup>灰</sup>腸

痛ヲ甘解スルニ良ナリ<sup>灰</sup>顔面<sup>灰</sup>癩<sup>灰</sup>ノ如キ<sup>灰</sup>良ナリ<sup>灰</sup>棉布ニテ面ニ貼ス<sup>灰</sup>珠<sup>灰</sup>ニ<sup>灰</sup>女<sup>灰</sup>ク<sup>灰</sup>竜<sup>灰</sup>胆<sup>灰</sup>ヲ加<sup>灰</sup>赤色<sup>灰</sup>ヲ消散ス又<sup>灰</sup>ス<sup>灰</sup>キ<sup>灰</sup>ユ<sup>灰</sup>ル<sup>灰</sup>フ<sup>灰</sup>ト<sup>灰</sup>イ<sup>灰</sup>ド

フル<sup>灰</sup>コ<sup>灰</sup>ラ<sup>灰</sup>ント<sup>灰</sup>イ<sup>灰</sup>ド<sup>灰</sup>及<sup>灰</sup>他<sup>灰</sup>ノ<sup>灰</sup>熱<sup>灰</sup>ヨリ<sup>灰</sup>發<sup>灰</sup>ス<sup>灰</sup>皮<sup>灰</sup>ノ<sup>灰</sup>諸<sup>灰</sup>疾<sup>灰</sup>ニ<sup>灰</sup>良<sup>灰</sup>ナリ

○<sup>灰</sup>シル<sup>灰</sup>レ<sup>灰</sup>コ<sup>灰</sup>ロ<sup>灰</sup>イ<sup>灰</sup>ド<sup>灰</sup>ノ<sup>灰</sup>性<sup>灰</sup>此草ノ花ノ<sup>灰</sup>開<sup>灰</sup>キ<sup>灰</sup>始<sup>灰</sup>シ<sup>灰</sup>時<sup>灰</sup>千<sup>灰</sup>ヨ<sup>灰</sup>ツ<sup>灰</sup>ト<sup>灰</sup>輕<sup>灰</sup>ル<sup>灰</sup>ク<sup>灰</sup>之ヲ<sup>灰</sup>觸<sup>灰</sup>レ<sup>灰</sup>撞<sup>灰</sup>ク<sup>灰</sup>片<sup>灰</sup>ハ<sup>灰</sup>其<sup>灰</sup>花<sup>灰</sup>前<sup>灰</sup>ニ<sup>灰</sup>モ<sup>灰</sup>後<sup>灰</sup>ニ<sup>灰</sup>モ<sup>灰</sup>落<sup>灰</sup>ツ<sup>灰</sup>俗<sup>灰</sup>語<sup>灰</sup>フ<sup>灰</sup>其<sup>灰</sup>時<sup>灰</sup>ニ<sup>灰</sup>言<sup>灰</sup>フ

取<sup>灰</sup>ノ<sup>灰</sup>辞<sup>灰</sup>ニ<sup>灰</sup>因<sup>灰</sup>テ<sup>灰</sup>然<sup>灰</sup>リ<sup>灰</sup>ト<sup>灰</sup>然<sup>灰</sup>氏<sup>灰</sup>是<sup>灰</sup>此<sup>灰</sup>草<sup>灰</sup>ノ<sup>灰</sup>性<sup>灰</sup>ニ<sup>灰</sup>モ<sup>灰</sup>テ<sup>灰</sup>怪<sup>灰</sup>ム<sup>灰</sup>フ<sup>灰</sup>ナ<sup>灰</sup>シ

○<sup>灰</sup>白<sup>灰</sup>花<sup>灰</sup>ノ<sup>灰</sup>シル<sup>灰</sup>レ<sup>灰</sup>コ<sup>灰</sup>ロ<sup>灰</sup>イ<sup>灰</sup>ド<sup>灰</sup>ハ<sup>灰</sup>常<sup>灰</sup>ニ<sup>灰</sup>根<sup>灰</sup>ヲ<sup>灰</sup>蝕<sup>灰</sup>キ<sup>灰</sup>テ<sup>灰</sup>透<sup>灰</sup>鏡<sup>灰</sup>ス<sup>灰</sup>ル<sup>灰</sup>ノ<sup>灰</sup>多<sup>灰</sup>ク<sup>灰</sup>ノ<sup>灰</sup>虫<sup>灰</sup>ハ<sup>灰</sup>アリ

**他用** 此花ノ<sup>灰</sup>黄<sup>灰</sup>色<sup>灰</sup>ノ<sup>灰</sup>モノ<sup>灰</sup>髪<sup>灰</sup>ヲ<sup>灰</sup>黄<sup>灰</sup>ニス<sup>灰</sup>ル<sup>灰</sup>ニ<sup>灰</sup>用<sup>灰</sup>ユ<sup>灰</sup>ル<sup>灰</sup>ノ<sup>灰</sup>外<sup>灰</sup>又<sup>灰</sup>乾<sup>灰</sup>キ<sup>灰</sup>タル<sup>灰</sup>ヘ<sup>灰</sup>イ<sup>灰</sup>ゲン<sup>灰</sup>ニ<sup>灰</sup>シ<sup>灰</sup>テ<sup>灰</sup>此<sup>灰</sup>内<sup>灰</sup>ニ<sup>灰</sup>貯<sup>灰</sup>フ<sup>灰</sup>或<sup>灰</sup>ハ<sup>灰</sup>詔<sup>灰</sup>フ<sup>灰</sup>ハ<sup>灰</sup>テ<sup>灰</sup>撥<sup>灰</sup>ク<sup>灰</sup>メ<sup>灰</sup>ニ<sup>灰</sup>此<sup>灰</sup>草<sup>灰</sup>ノ<sup>灰</sup>葉<sup>灰</sup>ヲ<sup>灰</sup>其<sup>灰</sup>周圍<sup>灰</sup>ニ<sup>灰</sup>係<sup>灰</sup>テ<sup>灰</sup>置<sup>灰</sup>ス<sup>灰</sup>レ<sup>灰</sup>ハ<sup>灰</sup>其<sup>灰</sup>益<sup>灰</sup>大<sup>灰</sup>落<sup>灰</sup>ズ<sup>灰</sup>ト



此草ノ汁ヲ以テ手ヲ洗ヒ水ニ入レ魚ヲ捕レバ其手ニ捕ヘ  
得ルナリ

○此ヲトルセンコロイド或ハゲルセンコロイド羅甸ニカンテラリア  
ト名ク此草ノ葉ノ乾キタルヲ巻キ引延シテ燻燭ノ如クナシ燻心  
ニ用ユルガ考ナリ是以此葉ノ周圍ノ灰白毛茸ヲ剥リテ大屑  
トナルナリ

○イタリアノ人此草ノ汁ニテ乳ヲ凝固セシムルニ用ユ



第二十八章

モウテレコロイド 一名「ブラウタリイ」

**品類** 此草數種ノ分ツト虫モ花ノ色状ニ就テ區別スルノミ  
子輩此ニ一種ヲ説ク

**形状** 此草「スワルテシルレコロイド」ノ同種ト見ユ其莖葉ノ状全  
ク相似シ以テナリ」此草ノ葉<sup>滑</sup>澁ニテ毛<sup>毛</sup>ナクウレ光アリ<sup>狭</sup>長ナリ

シ互生シ其莖ノ上端花ヲ着ク<sup>鮮</sup>色大抵ハ黄或ハ粗紫色  
ノ葉アリ其臭<sup>臭</sup>カラス或ハ淡紅或ハ枯紅色ナル<sup>腫</sup>アリ或ハ又  
ウレク褐紫カ、リタルアリ或ハ光澤黒色即チ紫碧色シ云  
此花圓ニシテ堅キ房ヲ生シロインサアトヨリ大ナリ其内黒小  
子アリ○根ハ堅ク細髪アリ

**出處** 此草「イタリア及ヒポーグドイワ」子「ドイワ」ノ処ニ産ス  
涅空斬土堤及川ノ傍ニ主ス○黄花ノ種ハ多クアリ此系花ノ  
モノ<sup>女</sup>ナシ<sup>結</sup>梗色ノモノハ「バーメルラント」ニアリ<sup>葉</sup>テ其種ヲ



園ニ蒔キシトアリシニ其後年々能生スルヲ得

**時候** 此草ハ六月ヨリ九月マテノ間ニ花ヲ登シ安シ結フ

**稱呼** 此草今羅甸ニ「ブラワテリア」ト名ク「アラバンツ」ニ於テ「モツ

テニコロイト」或ハ「ブラワタリ」<sup>ト名ク</sup>「ホルドイ」ニ多ク「コルド」コノウヒト

名ク或ハ「カベ」ニカラウト及「モツテ」ニカラウトト名ク

○予考ルニ「フリニウス」ノ著書第二卷九頁ニ著ス所ノ草ト

相似タリ其説ニ云「コレロイド」ニ甚タ相類スルノ一草ト

ク見ル所ノモノアリ其モノ「モツテニコロイト」ヨリ大ニク褐色深ク又

彼ノ葉ノ如ク向カラズ彼ヨリ「蔓」多ク「黄花」<sup>ト名ク</sup>「アリ

此草ヲ枝葉レハ此ガ全ク「モツテ」トナル是故ニ之ヲ「ブラワタリ

タリア」ト謂フ即チ「モツテニコロイト」ナリ此説我輩ノ「ブラワタリ

イト」云フモノニ同シ如何トナレバ其サ化及「蔓」<sup>前ニ謂フ</sup>「ズワルト

シルレコロイト」<sup>カモ</sup>相似タリ然ラハ則チ此草「モツテ」ト

○「ハレリウス」コル「デュス」<sup>四雅甸ニ於テ之ヲ</sup>「アルバスキユム」レプト「ロイ

ルリユム」ト名ク「シルレコロイト」ノ「狭葉」ナルモノトス

或書ニ謂フ此ハ古人ノ「ゲレイソゴ」ト稱スルモノニテ他書ノ

「ブラワタリ」トハ甚タ異ナリ如何トナレバ「ブラワタリ」<sup>灌木類</sup>

ノモノニアラズ「敏」枝ナル「サ」且根亦塊結シテ果球如クナラ

ズ其裏面赤色ナシ此ニ由テ「ブラワタリ」ハ「ゲレイソゴ」トハ

似ル「サ」ト知ベシ

「ゲ」ス「コリ」テスノ「所謂」<sup>ゲレイソゴ</sup>ニハ彼之ヲ叢生スル灌木ト

又其葉ハ「エ」<sup>標</sup>「ケ」<sup>標</sup>「ボーム」ノ如ク其花ハ「アルバスキユム」ノ如シ人此ヲ

「カ」<sup>ラ</sup>「ン」<sup>セン</sup>「頭飾」ニ用ユ其根ハ塊ヲナシ果ノ如ク其裏面赤ク

具表ハ「黒」色ナリ

**性功** 此草ノ性功ハ「フリニウス」ハ説「ナシ」今此草ノ苦味

ナルヲ考レハ其性熱燥ナルベシ

**附考** 今時ノ本草家「モツテニコロイト」ノ種最モ多ク區別ス然

其諸種ノ如キモ「ドリ」子ウス亦已ニ之ヲ説テ云其花ノ色状ノ

差異ニ因テ之ヲ區別スルヨリ他ナラズ○或ハ「ローベル」ノ説ニ

從ヒ「フリニウス」ノ「ズワルト」<sup>ルレコロイト</sup>ヲ真ノ「ブラワタリ」ト考

定セルヲ奉ク其説ニ云「諸」ノ「モツテ」ハ「ズワルト」<sup>ルレコロイト</sup>ト



混合スルニ因テ尋常ノフラタリイニ名「モツテニコロイド」是カ黄花ナルモ紫花ナルモ「シランキイ花ナルモ此ニ属ス」モツテニコロイドト合スル諸種「アラシ」ニ於テ「ヘルベアウキス」モツテス「ト名ケリ」  
 ○白花ノ「モツテニコロイド」ハ「ローベル」ノ説ク所ノ「ズワルト」フルバスキュムノ一種ナリ此ハ透褐色ノ葉アリテ黄花ノ「モツテニコロイド」及ヒ「ローベル」ノ説ク「プリニウス」ノ考フ所ノ「ズワルト」フルレコロイドトノ如クナラズ其花白色六出ス「黄花ハ五出ナリ」莖梢ニ多クノ小枝ヲ以テ開ケリ「此ラ園中ニ種ユレハ」モツテニコロイド及ヒ「ラテ」ニ名ケラフ「タト」エフノ虫ニ敗ラレ枯ル此虫甚タ此草ヲ嗜ムカ故ニ此ニ由テ「ブラタリ」ノ名ヲ得ルナリ「ローベル」云此草ヲ俗人「ルレコロイド」ト名ク  
 「モツテニコロイド」ノ美黄花アルハ「ローベル」云或ハ六ニ別ルモアリ多クハ五ニ別ル其瓣潤ク多ク筋條アリ且不整正ナリ其ハ中央ノ筋ハ赤ク他ノ如ク白カラズ其子ハ「ヘルサアード」ヨリ少シ皮中ニ色ム「コンゲル」ウイトコロイドノ子ノ如シ  
 「モツテニコロイド」ノ大花ニシテ塔様ノ粗糲撥族アルモノハ「ローベル」云此種ハ「イタリ」及ヒ外國ヨリ「チー」テラシト種ヲ移スモノナリ其莖ノ高サ三臂四尺許ニシテ黄ナル大花塔ノ如ク攢束スルヲ莖梢ニ著ク牝性「フルレコロイド」ニ似タリ然レ其莖ニ筋條アリ粗糲ニシテ緑色ナリ其莖ノ前ノ白花ノ「モツテニコロイド」ヨリ長大ナリ其色暗緑ニシテ多ク筋條アリ兩邊「青」淡緑深「青」アリ「事」家ノ常ノ「モツテニコロイド」ノ葉ノ如シ是一年ダチノ草ナリ

「ローベル」尋常モツテニコロイド「シ」古ノ「ケレイソゴ」ニムナリヤヲ疑フノ考シ異トセズ是此ガ強直ニシテ金黄色ノ花アルノミナラズ其根白ク一指大サニシテ「ステ」ク「ライ」エシ「野生」バテイヌノ根ニ似タルガ爲ナリ且其根夏末秋初ニ於テ内外褐赤色トナル是其滋養ノ熱ニ因テ消スルナリ又尋常モツテニコロイドハ苦味ニテ虫ヲ驅逐スル「アルセン」ア「ヘロー」子及ヒ他ノ苦味ノモノノ如シ  
 「モツテニコロイド」ノ緑花ナルハ「子」掌此糸色「モツテニコロイド」



ノ種ヨリ尋常モワテニコロイド花ハ異ナルモノヲ得たり  
其花美麗ニシテ粟ノ種麦ニ見ユ是其全ク緑色  
ニシテ小花ヲナスモノナリ

異色モワテニコロイドハ此系モワテニコロイドノ種ヨリ出ツ  
或ハ雜色或ハ此系色ヨリ緑色ナルモアリ

モワテニコロイドノ葉ハ形深ク鋸齒アルモノアリ  
モワテニコロイドノ一種白花ノモトモウチニコロイトノ花白ニテ

其中心ハシク紫色帯タルアリ

此ヲ種ルニ年々ニ甚々改ルナリ

規ノ如ク圓ク束子具白キ中心ニ黒点ヲ備ヘ遠ク之ヲ  
見レバ其中心ノ

性功アリニウ区ノモワテニコロイドハシレコロイドニ考アリ  
ト、子ウスノ尋常モワテニコロイドヲ此ニ記スベシ其味

甚苦シク<sup>ト</sup>ベル云内臓ノ閉塞及肝ノ細血脈ヲ用影<sup>ト</sup>其氏

毒咬傷及ヒ中毒ヲ治スルノ功ハ予カ知ラザル所アリ

云此草ハモワテニ<sup>ト</sup>導クニ用ユ故ニ其名アリ

ハルノ考ヲ所<sup>ト</sup>アリニウスノブラウタリアズワルトラレコロイドノ種

ニ於テハ此功アリヨ尋常<sup>ト</sup>ハ

其苦味アルヲ以テ<sup>ト</sup>道ヲ誘スルヨリ驅除ス

又髪ヲ黄色ニスルニ用ヒ又眼ノ嫩脆ヲ治スト



第二十九章 「イルト」  
「イルト」  
「イルト」  
「イルト」

**品名** 此草本草家大抵三種アルヲ知ル其内二種ハ「サヒ  
イ」ノ葉ノ如シ第三種ハ「バケツ」トイルデンヘウルルノ如シ

**形状** 第一種ハ高ク莖ヲ抽テ方莖ニ節アル小枝ヲ以  
テ木ノ如キ枝ニ着キ白キ毛茸ヲ周圍ニ被ル毎節ニ  
糙粗ニシテ厚シク~~毛茸~~毛茸密布セル葉ヲ對生  
ス「サヒイ」ノ葉ヨリ狭長ナリ其莖柄周圍ニ花ヲ着テ  
冠状ノ如クトヘ子トレシノ花ニ似テ此ヨリ大ニシ莖  
色ナリ具根ハ深ク土中ニ入り多ク鬚根アリ

第二種~~モサ~~「サヒイ」ノ葉ノ如ク但ツレヨリ大ニシテ且白ク毛茸  
アリ其莖柄ニ黄花ヲ着ス第一種ノ如シ  
或後ニ又一種~~アリ~~此草三種トス其葉深ク鋸齒  
アリ~~ラ~~「ワケツ」~~ト~~或ハ~~ハ~~「ウル」ノ葉ノ如シ(此「ウル」ハ「マツナ」ル  
スノ記スル所ノ多枝小花ノモノナリ)

**出處** 第一種第二種ハ「スバアグニイ」及「ラギユエドク」ノ諸  
國ニアリ其地ノ荒野石地ニ自ラ生ス「ドイツランド」及「子  
テ」~~ル~~「ランド」ニ於テモ玩草家ノ園中ニ見ル「ア」~~リ~~其地ハ  
奇珍トシ尋常アル「ア」~~リ~~「ア」ノ第三種ハ「イタリ」~~ア~~ニ常ニ  
多ニト見タリ

**時候** 此草「スバアグニイ」及「ホルトガール」ニ於テ五月六月  
ヲ以テ盛ナリト「カロリユス」~~カ~~「カル」ニユスノ説ナリ「子  
テ」~~ル~~「ランド」及「ホーグドイツ」ニ於テハ此ヨリ少シク遅シ

**稱呼** 本草諸家大抵此ヲ「イルト」~~ラ~~「ル」~~レ~~「コロイ」ト名ク羅甸  
「フルバスキユム」~~ル~~「スト」~~レ~~ナリ  
第一種ヲ「フルバスキユム」~~ル~~「ウ」~~エ~~「スト」~~レ~~「プリ」~~ミ~~「ユム」ト名ク或ハ  
此ヲ「フルバスキユム」~~レ~~「イ」~~ク~~ニテ~~ハ~~或ハ「レ」~~イ~~「ク」ニテ~~ハ~~ト~~ハ~~此葉  
ノ燈心ニ用ユルニ便ナル~~ガ~~「ガ」~~リ~~「テ」~~ス~~「エ」~~リ~~「テ」~~ス~~云「テ」~~ハ~~



アルリス<sup>ス</sup>モ亦「フルバスキユム」ニナシト名ク然氏「テリア  
ルリス」ノ花ハ赤色ニシテ「ニカシテル」ノ書中「テリアカ」ニ  
記スルガ如シ此ニ及シテ此草ノ花ハ黄色ナリ」是以テ  
予ハ謂ラク是「テリアルリス」ニモ非ス亦「レイクニクス」ニモ  
非ス「イルトシルレコロイド」ノ一種トスルノミ如何トナレハ「テ  
リアルリス」ニ於テハ第六卷ニ載ス尋常「キリスチユスツゲ」  
一名「レイクニス」サキハ「シ真ノ」テリアルリスト為ベキナ  
リ或ハ又謂フ此草ナラ「テリアルリス」ナルベキハ此葉ノ毛茸  
ノ燭心ト作ルニ宜カ為ナリト然氏此後モ未ダナリトセズ  
如何トナレバ諸草ノ葉ノ軟毛茸アツテ常ニ絢ヒテ燭心  
ニ用ユベキモノ此他ニ猶多キガ故ナリ

第二種ヲ羅甸ニ「フルバスキユム」ニルウエストレアルテリユム  
ト云フ「子トドイツ」ニ第二ノイルトシルレコロイドナリ

第三種ヲ羅甸ニ「フルバスキユム」ニルウエストレマトナリ  
ト云フ「昂チ」マトナリユスノ第三「イルトシルレコロイド」トス

**性** 此草性燥 常ノ「イルレコロイド」ノ如ク其功亦相同シ

**功能** 此葉ヲ蒸テ毳布ノ如クシテ火燒熱湯ホノ燒傷  
スル部ニ貼シテ良ナリ **他用** 此軟毛茸アルノ草ナル  
ヲ以テ燭心ト作シ用ユ

**附考** 此草多ク「ギリイケン」ニアリ「コルピニ島」及「イタリア」  
ニ於テハ此ヲ「ヌカメレ」ト稱ス「パンギユイルラ」云此草  
又「タク」スラウヲニイ「及」スユル「イ」ニ「タク」生ス此草ノ  
黄花ヲ是々賞玩ス「ローベ」云其花「ホー子」或ハ「マル



ロユエト似タリ葉と共ニ圓冠狀ノ花ヲ生シ兩側ニ  
 挺出シ淡白ニシテ縮ル葉アリ  
 第二種ハローベル此ヲイルト木様フルバスキユム即チ「フルレコロイド  
 ノカヒイ」葉ニシテ黄色アルモノト名ク此ヲ「マトチフリユス」  
 第四ノフルバスキユムト考フ是「ローベル」此種ノ一種第二ノ  
 「イルト」木様ノフルバスキユム「カヒイ」葉ナルモノヲ奉ク此ハ  
 「カイリイン」ヨリ出ウ其葉勁ク闊ク粗糲ナリムケリイフヘシ  
 「イルト」ズワルトフルバスキユム「ハローベル」云「マトチフリユス」ノ第三  
 「フルレコロイド」ニシテ「ダラギユス」ノイル野注「バスター」假種「サ  
 コイ」ナリ其葉「イル」野注「サヒイ」一名「スコルヂユム」  
アリニウスノ一名「ホル」野注「ニユム」ノ葉ト相似タリ其莖ノ四面枝アリテ  
 高サ尺或一尺半アリ多クノ冠狀ノ花ヲ生シ或ハ紫或ハ青  
 或ハ黄アリ七月ヲ以テ繁ス

「ドバ」子ウス」ノ第三種ニ於テ其花色ヲ詔フ「ナシ唯」フルバ  
 スキユムアルテリユム「マツチ」シリ」又「フルバスキユム」ヒユルヒユルキユム  
 エルウカホリヲト名クト云此言ヲ以テ之ヲ知リ且區別  
 シナスニ堪タリ如何トナレバ其葉鋸齒アリ「ラウケ」ワトニ似テ  
 「デーレン」ヘウレヨリ鋸齒深ク其色ソレヨリ豎ハ濃ナリ莖ノ  
 小枝ニ周圍ニ生ス其花ハ節間ニ生シ「カヒイ」又「ホル」ニニ  
 此ノ花ノ如ク其色モ亦相似タリ  
 此他又別種ノ「イルト」フルレコロイドアリ他種ヨリモ軟滑  
 ナルヲ異トス然レ此其生スル所ノ處ノ區別ニ由テ然ルヨリ他  
 ナラザレバ予輩茲ニ多ク之ヲ考索セズ  
 此草五六月ヲ以テ花ヲ登ル其毎々七月ニ熟ス其色ハ微  
 赤色ナリ  
 「コロシ」ウス」謂ラク此第一種其葉「カヒイ」ノ葉アル「イルト」フル  
 葉ニシテ



レコロイドハ「チラスコリデス」ノ「プロ」ニス。リグニチ、ス或譯ノ「テ  
リアルリス」カスチルリイニ「カ」ニ「ヂ」レ「ウ」ガ「ラ」ナ「デ」シ「ノ」メ「ン」セ  
ラ「ト」名クルモノナリ又第二種「ト」子ウスノ云フ所ノモノハ  
「マ」ウ「チ」ラ「リ」ス「ノ」イ「ル」ト「フル」バ「スキ」ユ「ム」ナリ「ホル」ト「ガル」ニ「放」テ「マ」ヒ「レ  
ラ」ト「名」ク「ト」キ「リ」シ「ウス」ノ「設」ナリ  
「野」生「イ」ル「ト」ラ「ル」レ「コロイ」ド「ノ」種「未」ス「ハ」其「功」家「生」ノ「如」シ「是」以「テ」  
家「生」ノ「モノ」缺「乏」ニ「用」テ「足」レ「リ」ト「ス」  
「ア」リ「ニ」ウ「ス」云「ラ」ル「レ」コ「ロイ」ド「ノ」諸「種」數「咽」ノ「巴」旦「杏」核「ノ」腫「ヲ」  
治「ス」  
此「根」ヲ「水」ニ「煮」タル「モ」ノ「胸」病「肺」膿「ヲ」略「ス」ル「ヲ」治「ス」又「馬」ノ「氣」  
急「及」シ「其」諸「藏」膝「腰」ヲ「牽」寧「ス」ル「ヲ」治「ス」ル「ニ」之「ヲ」飲「シ」ム  
此「葉」<sup>根ト共ニ馬キ</sup>酒「ヲ」釀「キ」扱「灰」上「ニ」安「シ」テ「眼」ノ「胞」腫  
ニ「温」ニ「シ」テ「貼」シ「テ」治「ス」

馬母ニ  
marck  
marck  
marck

此「根」ノ「マル」グ「シ」軟「膏」ノ「如」ク「作」リ「テ」瘰「瘡」<sup>ヒステルス</sup> 流「注」ニ「良」ト「ス」  
此「子」及「シ」葉「ヲ」春「テ」酒「ニ」煮「タル」モ「ノ」體「中」ニ「物」ノ「刺」シ「タ」ル  
シ「枚」ク「ニ」貼「ス」是「ヲ」以「テ」又「馬」ノ「ウ」フ「ホ」ル「子」ニ「貼」シ「テ」其  
「ブル」ナ「ー」ゲ「ル」止「街」ノ「刺」ス「ヲ」治「ス」  
シ「ル」レ「ブル」ム「ノ」油「ハ」饒「多」ノ「花」ヲ「浸」出「ス」テ「造」ル「痛」風「及」シ  
痔「ノ」痛「ヲ」鎮「止」ス「ル」ニ「丸」モ「功」アリ

第三十章

櫻草類

「スレ」ウ「テル」ブル「ー」メ「ニ」一「名」「プリ」ミ「ユ」ラ「ヘ」リ「ス」又「イツ」テ「ベ」ト  
ニ「イ」

種類 此「草」ニ「種」アリ「一」ハ「大」ニ「シ」テ「子」葉「ノ」花「アル」モ「一」ハ「小」  
ニ「シ」テ「各」莖「ニ」單「弁」ノ「花」アル「モ」ト「ナ」リ

形状 其「大」<sup>芽一様</sup>ナル「者」ハ「潤」キ「葉」アリ「ベ」ト「ニ」イ「ノ」葉「ノ」如「ク」皺「縮



ス然氏「ベトニイ」ヨリ六ニシテ且ツレヨリ淡緑色ナリ葉  
邊鋸齒ナク或ハ甚々少シクアルモアリ其莖ノ中心ヨリ細ク  
毛ナキ花莖<sup>ニ穂長サナリ</sup>シ生シ其端ニ小花ヲ着ク其花ノ周圍齒  
缺スル如ク鋸齒ヲナス又多ク低垂ス其根ハ鬚ノ如ク  
彼此ニ延擴ル

此第一種ノ花ハ或ハ美黄色或ハ淡黄殆<sup>ト</sup>ト白色ノ如キ  
アリ或ハ佳香アリ然氏多クハ別ニ香氣ナシ<sup>ト</sup>千葉花ナリ  
モノモ處々ニ見ル<sup>ト</sup>アリ

第二種小ナル者モ其大ナル者ト相似テ唯<sup>葉</sup>ノ小ナル<sup>ト</sup>  
其葉同多ク小莖直ニシテ短ク僅一掌徑許ヲ生シ其梢  
ニ花ヲ着クル<sup>ト</sup>各莖一花<sup>單葉</sup>其色淡黄第一種ノ花ト相似  
タリ其根モ第一種ノ根ノ如ク鬚根ナリ○此後麥ニ一  
絶花色草色暗緑ナルアリ此ニハ或ハ千葉ナルモアリ

**出處** 此草ノ稔麥好テ湿卑地ニ生ス然氏全ク水中ニ在ズ  
多クホ以林中ニ生ス或ハ又平野風日ノ土ニモ生ス

**時候** 此草三月四月ヲ以テ花盛ナリ若冬月嚴寒ナ  
ラガレバ春ニ至テ其花早シ若嚴寒ナレハ或ハ枯槁シ或  
ハ減滅ス

**異稱** 此草羅甸ニ「プリミユラヘリス」ト名ク其諸草ニ先ツ  
テ春早ク萌生スルカ爲ナリ又其花ヲ登スルノ早キガ爲ナリ  
又或ハ之ヲ「アルテナカ」又「ベルバパラリス」ト謂フ此草ノ  
關節及ヒ神經ノ痛ヲ甘解スルニ効アルガ爲ナリ「イタリア」  
ニテ之ヲ「ブラケココリ」又「ブラケジココ」ト稱ス

第一種大者羅甸ニ「ベルバサニクチペトリ」或ハ「ベトニカアルバ」  
「ホーグドイツ」ニシキユルユセルブリユメヒ或ハ「ロムメルシキユルユセ」  
此「子ードルドイツ」ニフシントヘツテルスコロイド」或ハ「スレラテル  
ブルーメニ」<sup>△</sup>「ペーメルスレラテレ」<sup>△</sup>ハ「イッテベトニイ」ト稱ス

△  
サントヘラ  
スカラウト



第二種小者羅甸ニブリミユウヘリスミノル<sup>ト</sup>子<sup>ト</sup>ーデ<sup>ト</sup>ド  
イウノケレイ子スレウテルブル<sup>ト</sup>カ<sup>ト</sup>シナリ

此草ノ種麦ヲ諸本草家「フロミテス」又「アルバスキユラ」  
トス是古人ノ所傳「ケレイ子ヲルコロイデシ」ナルモノナリ然  
其葉圓ナラズ毛茸ナシ此教ノ内ニ入ベカラス如何トセハ  
「フロミテス」ハ圓形毛茸アルノ葉ナリト謂フ毎々「プリニ  
ウズモ」ダセヨイスノ言ヲ示ス如何トナレハ「チラスウリテス」  
云「フロミテス」ニ二種アリ毛茸アリ土ニ<sup>生</sup>ル<sup>ル</sup>圓葉  
アリ又「プリニウス」此ヲ其書ノ二十五ノ十章ニ著ス又人  
「フロミテス」ノ毛茸アル圓葉土ニ<sup>生</sup>ル<sup>ル</sup>ニ種アルヲ見

**性功** 此草性燥ヤリ然凡甚しキ熱アル<sup>ル</sup>ナシ  
**主治** 此草關節ノ痛及<sup>ニ</sup>神經ノ病ヲ<sup>治</sup>療<sup>ス</sup>ル<sup>ル</sup>ニ

此根ヲ水ニ煮テ腎中結石及膀胱ノ石ヲ患ルニ多ク  
用<sup>シ</sup>ム

此葉ノ汁内外關節傷破裂閃挫ニ要トシ用ユ

**附考** 此草諸國ニ於テ人ノ知ル所ナリ其種麥甚タ多シ

野生者クハ玩草家園ニ培養スルニ因テ種々ノ區別ヲナス  
然凡其一種ヲ知レハ其他ノ種麥ハ知リ易キナリ

此草ノ大ナル種ノ圓莖ナル者ニ於テハ常ニ一<sup>ニ</sup>簇<sup>ニ</sup>ニ九花十花ヲ  
祭<sup>シ</sup>其後ニ小枝長ナル球ヲ以テ子ヲ熱ス○大ニシテ千葉  
花ノスレウテルブル<sup>ト</sup>ハ「エンゲラ」ヨリ出ス千葉ノキリスモス  
「シゲヒ」ノ大ノ如ク其花ヲ祭スル<sup>ル</sup>ニ

白花ノスレウテルブル<sup>ト</sup>ハ小ナル種ノ深香ナルモノヨリ<sup>我</sup>邦<sup>ニ</sup>多ク  
コレアリ之ヲ園中ニ植メ得ベシ其雪白ナル者ハ異邦ヨリ<sup>本</sup>ん  
モノナリ



又其花ニ銹齒アリ且皺縮シテ暗緑色ノモノアリ其氏  
如此ノ異種ハトニ子ウスハ概  
ニテ~~...~~其後コロシウス及ローベニモヲ記載ス  
此草ノ赤紫、肉色、淡紅、暗赭、白、俟向ナル花アルコロシウス  
シーストレイキニ於テ此種類ヲ見ルベキアリ或人ノ偶フ赤花ナル  
モノアリニユラヘリス。リュブド。フロレト名クルモノト甚ク遠カラ  
ズ~~...~~設ニ云此草春初ニ地ヨリ萌出し十葉<sup>初ハ</sup>十二葉ヲ擡發シテ  
一球ノ如ク聚リスヲ経テ自ラ地ニ沿テ擴リ具葉ノ裏面ノ内側  
繭細色ニシテタク粉ヲ撒スル如ク其表面兩側及具葉本ハ  
緑ニシテブレイキアクチハウシク皺縮シ且ウシク厚クヨ守帯ノス  
レウテルブルーニト相似タリ<sup>其氏</sup>彼ヨリハ小ニ狭ク又其如ク皺  
縮セズ其味ハシケル<sup>其中心</sup>ヨリ一或數條ノ莖ヲ抽キ  
或ハ一尺ノ高サトナリ<sup>軟ナリ</sup>其梢ニ繭細色

ナル莖ハ箇十箇ヲ着テ冠狀ノ如クスレウテルブルーニト如ク兩裂  
セル花~~...~~莖ノ中ニ五瓣ニシテ美ナル紫色色或ハ肉色或ハ暗赭  
ノ花ヲ發ス又或ハ稀ニハ白色又白色ヲ帯タルモノアリ其中心  
花跖ニ聚ル所ハウシク黄色ヲ帯フ又此花ウシク香氣アリ  
其後狭長ノ莢ヲ結ビ其内ニ小細ニシテ微赤ナル子ヲ盛ル此花  
ノ赤キモノニハ其花心ニ小鍼アリ他ノスレウテルブルーニアルカ  
如シ然ル其色ノ最赤ナラザル淡赤ナルニハ此鍼アルトナシ其  
根ハ白色ヲ帯鬚根ナリ此ヨリ分チ種<sup>カ</sup>ベシ此草十八四月ノ末ヨリ  
五月ヲ至テ花サクモノナリ  
コロシウス云此草ヲ園中ニ種ニニ其花莖ノ中ヨリ一寸許ノ  
莖ヲ抽出シ其梢ニ又花~~...~~着クルトアリ<sup>其甚ク奇トス</sup>  
又此草ノ種麥「エンゲルセ」於テ全ク野生ナルモノアリ「スタード」ハ「イ  
ヒユレ」ト遠カラズ  
彼謂フ此種麥ハ「ドイツ」ランドノ「ケイセルリン」ト名クルモノト



思フ羅甸ニ「カサルインテルヘルバス」或ハ「レギユス」ト謂フ又  
人ハ其花ヲ「ケレウツエブリユメ」ト名ケ或ハ「ケレインロトシキユル  
セルブリユメ」ト名ク「エ」ケラントノ土人ハ之ヲ「ビルテイ」ト呼フ  
是ハ「ホーゲル」<sup>鳥ノ眼ノ文</sup>ナリ此名又他草ニモ名クルヲアリ是羅甸  
ノ「カルダミナ」フラテンシス」ト稱スルモノナリ。

「スレウテルブルム」ノ雪白花アルモノハ「エ」ゲラントニ生ス。其他ノ  
高キモノ低キモノ千瓣ノモノ單瓣ノモノ皆「エ」ゲラントヨリ此邦  
ニ送ル。是猶其他ノ花モ他邦ニハ單瓣ナルノミナルヲ「エ」ゲラント  
ヨリ来ルハ或ハ其本性ニ因リ或ハ培養ニ因リテ重瓣モノヲ出ヌ  
カ如シ  
「ロトベル」アルペインセサニケルノ品麦ニ放テ同此種麦ハ「スレウテル  
ブルム」ノ同種ナリト而シテコロシウス赤及此等「スレウテルブル  
ム」ト名クルモノヲ區別セズ如何トナレバ「ロトベル」ハ此種ヲ三種ニ  
別ツ即チ「<sup>ゴロ</sup>アルペインセサニケル」ノ大ニシテ狭葉ナルモノ羅甸ニ

「バラリチカ、アルピナ、サニキユラ、アングユスチホリア、マヨルト」ト言フ  
是大ナルバラリチカサニキユラニシテサシク鋸齒アル葉ナルモノ此ヲ  
此種ノ大ナルモノト名ク其葉「ベルスガナ」<sup>上</sup>ノ葉ヨリ長シ其  
花ハ冠状ヲナシ數花一莖ニ攪簇ス其莖ハ一尺或三寸半徑ニシテ  
軟ナリ其花色赤或ハ肉色ニシテ變散スベシ此草ハ「フォーストレイキ」  
ヨリ来ル。【<sup>此語未詳</sup>「ブランシ」<sup>上</sup>「カルレス」<sup>上</sup>「レスキユリユセ」】○【<sup>上</sup>其二】「<sup>上</sup>ウッテル  
アルペインセサニケル」<sup>上</sup>羅甸ニ「サニキユラアルピナ」<sup>上</sup>ニシテ「ウエ、メチア」  
ト謂フ是其中ナル種ニシテ其葉小而鋸齒アリ其花ハ他種ト  
同シ其莖ハ三寸或一寸半徑ノ高サナリ其根ハ鬚ヲナス。○  
【<sup>上</sup>其三】「アルミンステ、アルペイン、サニケル」<sup>上</sup>羅甸ニ「サニキユラ、アルピナ、ミ  
ニマ」ト言フ是最モ小ナル種ニシテ斷ク一寸或ハ一寸半ノ高  
サナリ其葉モ之ニ準シ小ナル「ベルス」ナリヘルコロイドヨリナリ其  
葉末ニ鋸齒アリ其花ハ赤シ  
「スレウテルブルム」一花ヨリ又一花ヲ生スルモノハ「<sup>上</sup>子」<sup>上</sup>「デルラント」<sup>上</sup>放テ



稱字

近比翫草家ノ園中ニ見ル所ナリ此ハ尋常ノ「スレウテルブルーム」ト  
相似テ花色黄ナリ其莖ノ中央ヨリ出ル一花其鉞ヨリ又同  
形ノ一花ヲ生ス是カニ奇トシ見ルニ堪タリ  
ローベル謂フ「スレウテルブルーム」ノ諸種ハ「ダラスコリデス」ノ「プロ  
ミテス」ニ当ル「ド」子ウズ及「ワ」チヲリユズハ之ヲ許スサバルトモモ  
予ハ坐リトス「サビウ」スコロムナハ謂ラク「チ」ヲスコリデスノ「アリス」マ  
ノ一種ナリト  
「デ」フランワイセン此草ヲ「~~コクワウ~~」或ハ「ブライエ」ステコ  
或ハ「プリメ」ヘト名ク「イタリア」ニ「ヘルバ」パ「ラリ」シ又「ロタル」ヂ  
フリウ「エラ」又「ブラセ」デコ、ロ或ハ「ゴグノル」ト名クト「ローベル」云  
「エリ」ホンガ「テ」ニ「カ、ハ」ラ「グ」又「レント」ペ「ー」テルスコロ「イド」羅  
甸ニ「カラ」ワイ「ス」サン「ク」チ「ペ」トリト云フ「エンゲルセ」コウ「エ  
スリ」ペ又「プリム」ロー「セ」ト云「ヂュ」ヘル「エンゲルセ」スレウ「テルブル  
ム」羅甸ニ「プリ」ミユ「ラ」ホル「テ」シ「ス」アン「デ」リ「カ」シム「ニ」ユム「マ」キ「シ」ヌ

又「セ」ロ「チ」ナ「フ」ロ「リ」グ「ウ」ス「フ」レ「ニ」ス「ト」云フ

「スレウテルブルーム」フ「香」ナ「キ」ハ「羅甸」「プリ」ミユ「ス」プ「フ」テ「シ」ヌ、  
「イノ」ド「ラ、リ」ユ「ト」ユ「パ」ル「リ」ダ「ト」云「エンゲルセ」「ラ」レ「リ」ツ「ペ」ト云  
「ボ」ウ「セ、スレウテルブルーム」ハ「エンゲルセ」ニ「ゴ」ス「リ」ツ「ペ」又「シ」ル  
「ハリ」ユム「プリ」ミユ「ラ」ト云此草「タ」ラ「キ」ウ「ス」ノ「アル」バ「ス」キ「ユ」リ「ユ」ム  
ト似「ナ」シ是「我」輩ノ「ゴ」ロー「テ」コ「ー」レン「ブルーム」ト名クモノ、  
外ナラズ

【功能】「スレウテルブルーム」其性燥 第三度ニ至ル是改ニ其功

モナク之ニカレリ

① 此草ノ根ヲ「サ」ヒ「イ」マリ「シ」レイ「子」ト「共」ニ「水」ニ「煮」テ「服」及神經

ニ「属」スル「疾」ニ「功」アリ「改」ニ「手」足ノ「顫」振「ス」ル人「ベル」ル「テ」及「折」

タル者ニ此ヲ「飲」服セシムルヲ「良」トス

② 他ノ諸邦ニ於テハ此草ヲ「菜蔬」トシ「食」シ「其」用「ト」スルハ「ド」バ  
子ウズノ考フ所ノ諸疾ヨリ外ニハ其功用ヲ知「ナ」シ



此草ヲ蒸餾スル露水 心臓及全體ノ弛緩衰弱ヲ治スル  
功アリ此物能心ノ官能ヲ強壯スルガ故ナリ  
此草ノ花ヲ二ノ液ニテ母服スレバ蝎螫毒及蜘蛛毒ヲ  
治ス

此草及花ヲ細ニ搗キテ創口及傷処ニ置ハ速ニ愈エ  
頭痛スル人前頭ヲ此草ノ露水ニテ濕ス時ハ大ニ功アリ

此草又菜羹果餅「エイエ」クウ「ケ」ガ「ド」ニ用テ其味  
悪シキ「ト」ニ此草最モ頭及神経ホメウレン「ノ」汚腐或ハ  
血ノ燬衝ヲ治スルニ功アリ是故ニ愈創菜ニ當ツ

「イタリ」アノ婦女此草ノ花ト「アラキ」ニ「ル」ノ根ヲ白酒中ニ  
浸シ之ヲ蒸餾シテ水ヲ取テ顔面ヲ洗ヒ顔ヲシテ光沢  
ニシ皺縮ヲ除クニ用ヌ

ユキワリ草  
日光山

第三十一章 「ベールン」シ「ル」一名「アウリキユラヒル」

**品名** 此草モ「スレウテルブルーム」ノ種麥トシ奉ルヘト故ニ  
予之ヲ此ニ属ス

**形状** 此草緑而白ヲ帯タレ潤キ葉アリ「スレウテルブルーム」ノ葉ト  
同形ナリ但毛茸ナク皺縮ナク奇麗ナリ且「スレウテルブルーム」  
ノ葉ヨリ厚シ「其葉間」ニ細圓莖ヲ抽キ其末梢ニ多ク  
ノ花ヲ着ク「ゴート」スレウテルブルームノ花ノ如ク大抵黄色或  
ハ白ヲ帯フ又或ハ紫色色若クハ淡赤ナリ其根ハ土中ニ  
固着ス鬚根ニシテ其鬚根大ク長シ

**出處** 此草アルペスノ高山巖石地ニ常ニ雪アルノ処  
ニアリ或ハ「ズウ」チ「ル」ニ見ル「イニスル」クニ遠カラガ  
ル処ニ「チロル」ノ領地ニ見ユマリ又「ゴリツ」チ「ン」  
ノ「スアル」ハ「チ」ニ「ス」山「グ」ステ「レイ」キ「ノ」山ニモアリ又「ハール」  
ニハ一種此草花ノモノヲ生ス



**時侯** 此草ハ春花アリ或ハスレウテルブルムノ一穂ト共ニ春  
初ニ花ヲ発ス

**稱呼** 近世ノ本草家ハ此草ヲ「アウリキユラ フリミ」ト名ク  
此「ベレニシール」トナリ彼之ヲ「ソリダゴ」ノ穂麦中ニ奉ク又  
或ハ「バ」ラリチカ又ガニキユラアルピナト名ク「マツチリユス」モ亦

**一** 尋常香アル「アウリキユラ」トハ「スレウテルブルム」ト「ア」ト相  
似タル葉ニミテ皺縮セズ又スレウテルブルム及「バ」リアト白  
粉ヲ塗リタル如ク見ユル形ノ葉ヨリ厚ク全ク緑色ニシテ  
毛茸ナシ或ハ少シク白色ヲ帯フ又葉邊「蔚裂アル」ヲ見  
「フ」アリ或全ク「蔚裂」ナキモノアリ或ハ初生ニ「缺裂アル」モノモ  
具葉ノ長スル時ハ「缺裂」ヲ失フ其味ハ「カ」モ「苦」シ其葉ノ  
中央或ハ傍側ヨリ一「忍」許ノ莖ヲ抽ク全ク滑沢ニシテ粉  
シ塗ル如シ之ニ十或二十或三十猶其餘モ花ヲ生シ其花  
莖ノ首尾相齊シク其端ニ互ニ鱗吹ヒ区分スル所ノ小房  
ヲ掛ク此花ハ「スレウテルブルム」ト似テ五或ハ六ノ「截裂」アリ其  
香甚タ甘ク蜜ノ如キ臭アリ其色黄若クハ「ブレイキ」ナリ  
此花或ハ大ナルアリ小ナルアリ其花心ニ白キ環ヲ具シ或ハ鬚  
甚ホアリテ其間ニ「芒針」ヲ抽出スモノアリ或ハ「是」ナキアリ  
花後ニ栗壳色ナル不平等ノ子ヲ房中ニ含ス「ス」ト「スレウ」  
テルブルムノ如シ「其根ハ六」ノ長キ鬚根ニシテ且「ユ」反テ



**時侯** 此草ハ春花アリ或ハスレウテブルムノ一穂ト共ニ春  
初ニ花ヲ登ス

**稱呼** 近世ノ本草家ハ此草ヲアウリキュラ フリミト名ク  
此「ベレニシラ」ルナリ彼之ヲソリダゴノ種麦中ニ奉ク又  
或ハ「バ」ラリチカ又「サニキユラアルピナ」ト名ク「ワツチリユス」モ亦  
之ヲ「サニケル」ノ種トシテ區別シナス

**性** 此草ハ性燥ニシテ収斂ス

**功能** 此草或ハ治創菜ト共ニ莖或ハ特ニ用テ胸病ヲ  
治スルニ内用外用ス又内藏ノ痼疾及傷損ヲ治ス  
ルニ之ヲ數日續テ用ユ

**附考** 今時ノ說草家諸草ノ園中ニ集メ務メ野ハ且  
其香其形状ノ美ヲ競フ一アリ是ニ由テ予モ幾許ノ種  
品ヲ採得ル一「大先生」コリユスノ説ヲ取及「子」テ「ラ」ト  
ニ送未ル所及「奇」草ヲ「集メ」タリ「書」中ニ載スル所ノ「諸品」ヲ  
見ル一ヲ得ナリ

莖ノ首尾相齊シク其端ニ互ニ鱗吹ト区分スル所ノ小房  
ヲ掛ク此花ハ「スレウ」テ「ブルム」ニ似テ五或ハ六ノ截裂アリ其  
香甚タ甘ク蜜ノ如キ臭アリ其色黄若クハ「ブレイキ」ナリ  
此花或ハ大ナルアリ小ナルアリ其花心ニ白キ環ヲ具シ或ハ鬚  
甚ホアリテ其間ニ「針」ヲ抽出スモノアリ或ハ是「ナキ」アリ  
花後ニ栗壳色ナル不平等ノ子ヲ房中ニ含ス「ス」ト「スレウ」  
テ「ブルム」ノ如シ其根ハ大ク長キ鬚根ニシテ是「ユ」以テ



土ニ固着ス其根甚タ多ク茂成スルヲナス之ヲ園中ニ種テ務テ繁茂セシムレバ鷲クベキホドノ多クノ花ヲ着クルナリ是ヨリエレウス祝ケルノ一種ニシテ「ジョーストレイキ」ニ多クアル所ナリ「ジョーストレイキ」倍ニテ「カラフトカラウト」或ハスインデルカラウトト稱シ他ニ之ヲ「ブルスメケ」ニテスリユヘルブト名ナリ

二種アリキユラフリニノ紫花アルモノナリ「コロシウス」云此ハ第一種ノ葉ヨリ短葉ナリ是ハ葉尖ハ常ノ如ク闊ク圓ク葉末ハ狭シ又其葉ノ厚サモ第一種ノ如キニ及バス周圍ニ齶缺鋸齒アリ葉表ハ綠色裏面ハ緑ニシテ淡黄ナリ其葉ノ間又ハ側ニ滑走ナル莖ノ二指許ナルヲ抽キ此ハ花若クハ其餘ヲ着ク第一種ノ花ヨリ大ニシテ其色赤シ其色初メハ柔嫩ニ淡タル如ク暗色ニシテ其後美紫色トナル其周圍美麗ニシテ其表ハ淡白其香貴スベシ

前ニ云フ所ノ臭ノ如クナラズ其子ハ他種ヨリモ最モ小ニシテ里ク整齊ナラズ其根ハ第一種ノ如シ此種ハ多ク「インスプリエク」ニ生スト「子ウス」モ之ヲ説クガ如シ「ホーランドイテ」ニ之ヲ「ロウテシキユルセルブルー」ト名ナリ

第三ハ赤シテ白花アルモノナリ此種ハ其葉第一種ヨリ小ニシテ薄軟ニ有カラス粗糙ニシテ周圍鋸齒アリ其莖ハ前ノ如ク亦多花ヲ着ク其色ハ赤ク白ヲ帯タル點アリ其根ハ鬚根ニシテ其傍ニ新根ヲ發ス「ホーグアイ」ニ之ヲ亦「ロート」ニシテ「ユセルブリュメント」ト名ナリ

第四ハヤシク淡赤ニシテ其中ニ細毛アル花アルモノナリ此種ハ其葉第一種ヨリ小ニシテ尖リ鋸齒ナク表面ハ沢ニシテ裏面ハ緑ニシテ黄ヲ帯フ其味他種ノ如ク苦カラズ其花第一種ノ如ク但截裂深ク其色モ彼ヨリ淡赤ニ其中ニ滑沢ナル毛シ満タルサニ針アリ此花一拵ノ



ノ長ナル短莖ニ着テ二或ハ三花カ或四花シ一莖ニ着ク  
其子ハ他種ヨリ大ニシテガラウ色ナリ其根ハ他ヨリモ  
細ク黒クシテヨク土遠ク滋養又ハ新根ヲ繁茂又ハ此種  
ハ向ニモ多クアリテ或ハステインローセリト名ク其花  
ノローゼノ如ク美ナルヲ以テナリ

〔第五〕ハ小ナル紫赤花アルモノナリ此種ノ葉ハ殆ント全ク圓ク  
差長ク周縁鋸齒アリ第二種ヨリ小ニシテ甚緑ナラズ又シク  
灰白ナリ其間ニ細ク軟ナル莖ヲ生シ二三若ク其餘ノ花ヲ着ク  
上ニ牽クル諸種ノ花ヨリ小ニシテ五瓣兩分ヲナス其色ハ第二  
種ヨリ種ノ如シ其根ハ鬚根ニシテ他種ノ如シ

〔第六〕ハ白花ノモノナリ此種ハ第二種ヨリ小ニシテ其葉三ツ  
或ユウ有テ厚ナク淡緑ニシテ鋸齒ナシ其莖ハ三寸許若クハ其  
ヨリ長ク緑ニ白ク帯フ其梢ニ五花或ハ餘花ヲ着ク形状  
黄花ノ如ク但色ハ白シ其根ハ他種ノ根ノ如シ

〔第七〕ハ淡赤花モノナリ此種ハ其根第四種ノ根ノ如ク太ク  
白鬚アリ狭ク肥厚ナル葉ヲ五六葉生シ第四種ヨリモ狭シ  
其中間ヨリ葉尖マテ鋸齒アリ其味ハ甚苦シ莖ヲ生スル  
ト三寸許ノ高サ葉尖ト齊シク滑沢粗糙ナラズ此ヨリ  
是ヲ美麗愛スベキ花四五箇ヲ着ク其色ハブレイキ赤五瓣  
ニシテ兩分ヲナス其子ノ球ハ第四種ノ如シ此野生ノモノハ園中  
ニ徒ニ繁極スホーグスケイルマクトノ此草ヲ「ロックススベキ」  
ト名ク或ハ「ナルゲ」スハンデパールト云

〔第八〕ハ或ハアルカレンステベールト名ク此草ノ葉ハ縁ニ  
ナイゲルノ大サノ如ク其根狭ク葉尖ハ階クシテ鋸齒アリ緑色  
ニシテ助形ノ條理アリ他種ノ葉ノ如ク厚カラズ其味ハ甚苦シ其  
葉間一莖十二指横莖ヲ抽キ其末ニ二花ヲ着ク其色ハ  
淡赤或ハ肉色ナリ鋸齒セル房ヲ結ニ其中ニ漏ナル毛茸ヲ滿ク  
鋸刺スルーナシ又又ノ其ナシ其根ハ甚ク蔓延ト白鬚アリ  
此種ハ高キ雪山ニ生シ園中ニ植セズ



〔第九〕ハ雪白色ノ花アルモノナリ此種ハ其形状ハ小ニシテ  
高キ雪山ニ生シ其葉ハ「ブレキア」クナフニシテ其花ハ雪白ナリ  
此草ノ灰色或ハ里色ノ花アリト云ノ説アリ然レ是ハ未タ受  
ニシテ見ルナク不分明ナリ

〔時候〕此諸種ノ花ヲ登スルノ時ハ六月七月八月ニシテ雪ノ消  
シ始ムルノ時トス然レ或ハ之ヲ雪中ニ見テモアリ此ヲ「園中」  
移シ種レハ四月ニ花ヲ登シ或ハ再ヒ秋ニ於テ花ヲ登ス其氣  
候ノ温ニシテ融寒ナラザルノ時ニアルナリ

〔稱呼〕「ハビウス」コロンナハ此草ヲ「テラスコリ」デスノアリス又「ト」謂フ  
「ゲス」子ルウ「ハ」此ヲ「リユ」ナリア「アル」トリ「チカ」ト名ク「テ、スイツトセル」  
ハ「フリユ」ブリユム「ヒ」ト名ク是「ステイン」ロウ「エン」ノ花ナリ

〔性功〕此草ノ莖ヲ破裂ニ功アリトシ其根及全草ヲ用ユ血瘡  
創ノ飲トシテ良功アルヲ稱奏ス○此葉ノ尚緑ナルモノト根  
ヲ共ニ搗テ外用シテ月経ノ過崩ヲ遏メ又金刃創ノ出血ヲ止  
ルナカモ速ナリ

「カラシウス」ノ託スル形ノ第一種ハ「ジョーストレイキ」ニ「カラヒカ」ラウト  
及ヒ「シケ」ー「ヒンデル」カラウトト名ク此根ノ頭ヲ強壯ニシ眩暈  
旋轉ヲ防クニ良ナルガ故ナリ是以テ獵人多ク之ヲ用ユ彼カ  
高聳ノ峯ニ登ルニ此草ニナハルナク多キヲ以テナリ

或云此草ノ根根取モ良香ナルノ種ニハ酒ヲ芳香ニスルニ良ナリ  
此草ノ根ヲ蜜メハ寒聖京健ノ齒痛ヲ治ス又頭ノ寒傷  
ヲ治ス可也又「神」経多キ部ヲ強壯ニス

此根根取モ穢ノ瘡瘍ヲ清浄ニシ瘡ス○其汁皮ノ破裂  
ノ嚴寒及酸烈ノ瓜ニ由テ起リタル者ヲ速ニ治ス

此草ヲ「イタ」リアニ於テ女子其處ニト謂モハレン「ア」ヲ欲スル  
モノ之用ユ如何トナレハ此ガ汚ヲ乾シ且狹隘スルノ功アルバ  
ナリ



第三十二章 「アーチヲピス」

**品** 此草ヲ「ラルレコロイド」ノ種麦ニ入ル其葉ノ之ニ似タルガ為ナリ

**形状** 「アーチヲピス」ハ潤ク軟ニシテ白シ帯タル毛茸アル葉ナリ「ラルレコロイド」ノ葉ニ似タリ然レ<sup>支ヨリ</sup>硬色ニシテ毛茸多シ

**用** 蘇ニ銹菌アリ常ニ地ニ着テ生ス葉同ニ方形ノ莖ノ毛茸アル粗粒ナルヲ生シ之ヲ見ルニ灰色ナリ此ヨリ多枝

ヲ分チ其枝ニ作テ白花ヲ着ル<sup>ル</sup>其間ヲ整列ニス其花葉

ハルムハ此草ナリ

始シト「ドーヘチーテレシ」ノ薬ニ似タリ其後安

シユ<sup>シ</sup>ノ如シ其根ハ長ク之ヲ乾セバ里色トナル

**出處** 此草ハ「アグチヲピス」及「ズワルトモール」ニ生スルニ

ナラズ「トロイエン」ノ領地「ラダ山」キリーケン<sup>ノ</sup>メツセニアノ地ニ

生ズト「プリニウス」其書ソル七卷ニ著セリ又「プリニウス」

ノ同書<sup>四</sup>卷十女<sup>十</sup>ニ「メル」ニ見タルヲ載ス「メル」ハ

「ニルウス川」ノ島ナリ此ニ街房アリ亦「メル」ト名ク「アグチ

ヲピス」ノ領地ニシテ「エギプト」ノ命令ヲ領スル所ナリ今ハ

「イタリア」<sup>ホーグ</sup>及「ゾーデルラント」及「フランケルイキ」ノ穀

草家園ニ將來シ人多ク見テ得

**時** 此草「ゾーデルラント」ニ於テハ或ハ五月ニ見ル<sup>ル</sup>アリ其

根ハ「プリニウス」ノ説ニ從ヘバ秋ニ於テ之ヲ採リ貯フ

**稱呼** 此草「ギリキ」人ハ「アーチヲピス」ト名ク「羅甸」名モ亦同シ

是<sup>名ハ</sup>「<sup>形</sup>」<sup>形</sup>「<sup>ア</sup>」<sup>ア</sup>「<sup>チ</sup>」<sup>チ</sup>「<sup>ピ</sup>」<sup>ピ</sup>「<sup>ス</sup>」<sup>ス</sup>「<sup>メル</sup>」<sup>メル</sup>トモール<sup>ニ</sup>ニ從フ

或ハ「メロイデス」ト名ク「メル」島ノ街名ニ從フ●即チ「プリニウス」

ノ著ス後ノ如シ

**性功** 「チワスコリデス」云此草「ヘウパイ」<sup>腹痛</sup>「グトアル」人及「セイテ

シイキテアル」人<sup>根</sup>「<sup>テ</sup>」<sup>テ</sup>「<sup>飲</sup>」<sup>飲</sup>服スルニ良ナリ○「パウリユス」<sup>子</sup>「<sup>エ</sup>」<sup>エ</sup>「<sup>ギ</sup>」<sup>ギ</sup>「<sup>子</sup>」<sup>子</sup>「<sup>タ</sup>」<sup>タ</sup>「<sup>ヒ</sup>」<sup>ヒ</sup>

云此根咳血アル人及胸膈ヲ患フル人ニ良ナリ○「プリニウス」

亦云此草酒ニ煮テ諸創ヲ癒ニ治ス



第三十二章

アーチヲピス

**品** 此草ヲ「ラルレコロイド」ノ種麦ニ入ル其葉ノ之ニ似タルガ爲ナリ

**形状** アーチヲピスハ潤ク軟ニシテ白シ帯タル毛茸アル葉ナリ「ラルレコロイド」ノ葉ニ似タリ然レ<sup>支ヨリ硬色</sup>ニシテ毛茸多シ

**周縁** 二銹苗アリ常ニ地ニ着テ生ス葉同ニ方形ノ莖ノ毛茸アル粗糲ナルヲ生シ之ヲ見ルニ灰色ナリ此ヨリ多枝

シ分チ其枝ニ作テ白花ヲ着ル其間ヲ整列ニス其花葉ノ葎帽ノ如ク殆シト「ドーヘチーテレシ」ノ葎ニ似タリ其後妻

シ結ノ大抵一房ニ二子アリ其大サ「チラスコリデス」ノ説カ如ク「エルヒユ」ノ如シ其根ハ長ク之ヲ乾セバ里色トナル

**出處** 此草ハ「アグチヲピス」及「スワルトモール」ニ生スルノミナラズ「トロイイエン」ノ領地「ラダ山」「ギリケシ」ノメウセニアノ地ニ

生ズト「フリニウス」其書「六七巻」ニ著セリ又「フリニウス」ノ同書「四巻」十「七巻」ニ「メル」ニ見タルヲ載ス「メル」ハ

「ニルウス川」ノ島ナリ此ニ街房アリ亦「メル」ト名ク「アグチ

ヲピス」ノ領地ニシテ「エギプト」ノ命令ヲ領スル所ナリ今ハ

「イタリア」「ポーグ」及「ゾーデルラント」及「フランケレイキ」ノ葎草家園ニ將來シ人多ク見テ得

**時侯** 此草「ゾーデルラント」ニ於テハ或ハ五月ニ見ルヲアリ其根ハ「フリニウス」ノ説ニ從ハバ秋ニ於テ之ヲ採リ貯フ

**稱呼** 此草「ギリキ」人ハ「アーチヲピス」ト名ク「羅甸」名モ亦同シ

是<sup>名ハ</sup>「~~...~~」<sup>形似ニ稱</sup>「~~...~~」<sup>ア</sup>「~~...~~」<sup>チヲピス</sup>「~~...~~」<sup>スワルトモール</sup>ニ從フ

或ハ「メロイデス」ト名ク「メル」島ノ街名ニ從フ即チ「フリニウス」ノ著ス後ノ如シ

**性功** 「チラスコリデス」云此草「<sup>膝痛</sup>ハウ」<sup>腹痛</sup>「グト」アル人及「セイテ

シイキ」アル人<sup>根ヲ</sup>「~~...~~」<sup>飲服スルニ良ナリ</sup>○「~~...~~」<sup>ハウリユス</sup>「~~...~~」<sup>エギ子</sup>ト

云此根「咳血」アル人及「胸膈」ヲ患フル人ニ良ナリ○「フリニウス」

毎云此草酒ニ煮テ「諸創」ヲ速ニ治ス



**櫻修** 此諸病ニ於テアリニウス云「アチヲヒイン」ヨリ出ルモノ  
最モ功アリ此邦ニ産スルモノニ勝ル

**附考** 此草ニ就テ「アリニウス」怪ムベキ又シテ記セリ即チ此草  
「アギプテ」~~...~~ 眩鷲ノ徒ノ詐偽及履飾スルモノアリ殊ニ  
其根ノ味甚々粘膠質ニシテ之カ乾ク時ハ堅ク角ノ如シ○  
イタリア人之シ「アチシ」或ハ「アチシロ」ト名ノ「モントペル  
リール」ニ之ヲコトナリアト云其毛茸アリテ毛布ヲ着スルガ  
如キ故ナリ○此邦ニ於テハ此草ノ子ヲ第ニ年ノ前ハ得テナシ  
ローベル<sup>エラ</sup>「アチシ」ニス、プロミチスト云フ是ハ此草ノ葉ノ「コレコロ」ト  
ニシク似其根モ亦似テ乾ケハ黒色トナル故ナリ○ローベル云  
此草ノ此名ヲ得ルハ「培養家」ノ修考浮説シテ此葉ヲ  
少シノ水及川ニ投入レバ水ヲ吸収スト云ヨリ起ルト或  
云林ヲ焚キ灰ヲ撒シテ此草ヲ生スト云ヨリ如キ名  
アリト如何トナレハ「アチシ」ニストハ<sup>他</sup>花散及

灰ノ妻ノ美稱トスルガ故ナリ○此花ハ莖ノ周圍ニ「ト  
ロス」様ニ生シ色白ク「ト」子ウ込ノ云フ「ドー」へ子「テ」レ  
ノ花ニ似タリ但此ヨリモ大ナリトス「ローベル」云其花  
「シカル」レイ「エ」ノ花ノ形ニ似タリト「具」子ハ「ホル」ニ「ユム」子  
ニ似タリ  
「ア」エチヲ「ヒ」込ノ「潤」キ葉アルハ「子」デルラ「ンド」ノ園中ニ放  
テ多ク勤ノ養「ヒ」シテ之ヲ得「昂」チ「イ」タリア「或」ハ「ス」ラ  
ホ子「イ」エ「ン」ニ出ルト及「シ」テ甚々「潤」キ葉アリ

**或ハ** 罽<sup>冬</sup> 醋寒<sup>ニ</sup> 此草ノ枯根春初ニ膏壤ニ具葉墜

時アツテ此草嚴冬ニ酷寒ニ其根枯レ春初ニ於テ存  
レ氏其莖葉ハ萎敗スルナシ而後日温煖ノ力盛  
ナル時ニ及テ其初メニ復スルヲ得シ見シナリ

萎敗セルモノナシ



此草ノ性ハ中等ノ温而燥ナリ  
其功能ハローマノ医此ヲ水腫病及咽中ノ粗糙ナルニ  
用ユ又胸肺病ニ蜜ヲ加テ「ロイスト」  
エレクチュアルト作テ  
之ヲ教ク用ユ

第三十三章

「アルカチラ」チラスコリテス及其他ニ從フ

〔品〕 草具葉「チラスコリテス」及他ノ本草家ノ「アルカチラ」ト名クル  
草具葉「チラスコリテス」ニ似タリ是故ニ予此ニ記ス

〔形状〕 其葉「チラスコリテス」ニ似タリト云バ其毛茸糙粗ナル  
ヲ知ベシ然氏「チラスコリテス」ノ葉ヨリ圓ニシテ毛多シアリ  
ニウズハ唯ソレヨリ糙粗ナリト云ヒ圓キ一ヲシテ説カズ其

莖ハ長ク柔ナリ其實ハ「チラスコリテス」ノ子ニ似タリ其  
根ハ細ク軟ニシテ白シ味ハ甘シト「チラスコリテス」ノ説ナリ

此形状ノ「アルカチラ」ノ少シク異形ナルヲ書庫ノ古書ニ  
載スルヲ見ル「チラスコリテス」ノ葉潤ク（丸）縮皺シ軟細直

立スルノ莖アリ其末梢ニ或ハ毛茸アル「チラスコリテス」即チ  
コツケン（球）区シ著クイルデコメン」ノ第一種ニアルガ如シ

〔出〕 プリニウス云此草ハ石多キ土地ニ生スト

〔異〕 此草「チラスコリテス」及四維甸ニ「アルカチラ」ト名ク或ハ  
アルカトロント稱ス此名ハ「チラスコリテス」ニ「アルカトス」ト名クル  
ベール（球）ノ名ヨリ稱スルナリ

此「アルカチラ」又「アルシラ」又「アルカシラ」ニシテ「ベル」  
ナシ又ゴロトキリ（球）セ（球）ニコロイドト同一様ノ草トスルヲ信



スル人ハ大ニ謬レリ猶又謬テアルカチシニ及「アヒシラ  
カバルリナ」シ「ウ」フ「ブ」テニト異ナラズトモ得ル如何  
トナレバ「ベ」キ「シ」ニ又「ウ」フ「ブ」テニシ今此ニ云フアルカチ  
シニト共ニ集テ茲ニ四通クニ一モ相似タルヲ見「ナ」シ  
**性** 此草ノ性ハ「ガ」レ「ニ」ユ「ス」ノ説云適宜ニ乾燥ス其物ノ甚  
々細ニシテ其質ノ精ナルニ因ル

**功能** 「フ」リ「ニ」ウ「ス」ノ書第ニ十七卷ニ云此根ヲ「ウ」イ「シ」ニ煮  
口ヲ漱スレハ能ク歯痛ヲ治ス○此根ヲ「ウ」イ「シ」ニ以  
テ服シテ膝痛或ハ「シ」キ「ア」チ「カ」痛ヲ治シ又淋病及小  
便詰痛ヲ治ス○外用シテ燒傷及蟬裂ニ貼ス○此  
子ヲ細ニ舂キ根ト共ニ酒ニテ用テ前ニ云症ニ宜シ此ヲ  
以テ蒸尉スレハ甚々峻功アルヲ見ル

**附考** 「ト」子「ウ」ス此「アルカチ」シニト「アルキ」シニ又「キ」リ「ウ」セニ  
コ「ロ」イ「ド」ノ別ヲ子細ニ説示スルト雖モ本草者旧染ノ謬  
解ヲ防リコト能ハズ如何トナレバ衆説者「アルキ」シニヲ  
以テ古人ノ「アルカチ」シニトシテ全ク區別スル「無」キ故ナリ  
如此ナレバ「アルキ」シニト我輩ノ「アルカチ」シニト名クルモノトノ  
區別遂ニ混同スベシ蓋シ常人ノ意其説ノ証妄不明ナ  
ルモ旧習ヲ改ムル「欲」セ「カ」ルヲ以テナリ然氏唯何レノ  
草カ「チ」ヲ「ス」コリ「テ」ス「ノ」アルカチシニニ當ルヲ研究シ  
徹知スルニアル而已



第三十四章

馬鞭草

「エイゼルコロイド」<sup>一名</sup>「アルベナカ」

〔品〕此草「フリニウス」ノ區別ニ從ヘバ分テ二種トス即チ北性ト牡性トス或ハ之ヲ直生ト<sup>塌</sup>蔓生ニ分ツ

〔形状〕直生ノモノハ其根ヨリ一莖高サ一ス<sup>奇</sup>ハン子猶或ハ一<sup>二尺</sup>フト若一尺半許ナル<sup>ヤ</sup>方形ノ莖ヲ生ス或ハ其傍ニ旁芽ヲ生スルモアリ其葉ハ細長ク「エイケ」葉ヨリ小ニシテ周圍ニ鋸齒及ヒ<sup>深キ</sup>缺裂アリ其莖ニ沿テ小花ヲ登ス其色ハ「ブルーウ」帯白色ナリ其根ハ長ク或ハ鬚ヲ生ス

塌生ノモノハ其莖直生ノ莖ノ如ク或ハ一尺半許ノ長サノ方莖ニシテ直莖ヨリハ軟柔ニ其數幾多ク地ニ塌シ生ス其葉ハ前ノ如ク猶其缺裂深ク鋸齒多シ其莖梢ニ多クノ小花淡紫色色ヲ着ルコト直生ノモノヨリハ整列ナリ其根ハ深ク土中ニ入直生ノ根ヨリモ細ク軟ク長シ

〔出處〕此兩種共ニ家ナキ地卑濕ノ処ニ生ス直生者ハ「ホーグランド」<sup>子</sup>「テルランド」<sup>子</sup>「フランケレイキ」ノ園圃道途澁池等ニ多ク生ス塌生ノモノハ「ホーグランド」<sup>子</sup>「テルランド」ニ於テ奇品トシテ「スペイン」ヨリ来ルノ種ヲ園中ニ種ト垂モ自



ラ野生ノモノ、如ク生ス

時候 此草ハ七月八月ヲ以テ花ヲ登ス

稱呼 此兩種ヲ羅司ニ「アルベナカ」ト名ク古昔ハ此草ヲ  
家及ヒ「ケルク」ノ磚ヲ飾ルニ撒布シタルガ故ニ此名ア  
ルナリ○古人ハ神前及清淨ノ処ニ用ユル草ヲ「アルベナ  
ノ名ヲ命スロノイシ」ノ街長之ヲ刈取ルヲ「サ」トナス故ニ又  
「サゴミナ」トモ名ク「ヒウス」云此名ハ尋常ノ<sup>草</sup>カラズニモ  
之ヲ稱ス城樓ニ於テ樹ヲ伐リ取りタル時ニモ之ヲ稱スト  
「フリニウス」云<sup>其書二十二卷</sup>「アルベナ」及「サゴミナ」同品ナリ  
此麥ノ草ヲ「<sup>草名</sup>アンドリア」ニ於テ「テレンチウス」モ亦云神前清

淨処ノ「アルベナ」ヲ取ルト此語ニ由テ知ル「アイセルコロイト」  
一名「アルベナカ」ト稱スルノミナラス其他一ニノ神前ニ用ユ  
ルモノ皆之ヲ稱スベシ「アンドリア」ハ「キリール」語ニ「マイル」子  
ト云フ「ト」子「ウス」云此ハ「アイセルコロイト」ニ非ス「マイル」  
ニシテ其葉シ<sup>■</sup>以テ寺ヲ飾リ及ヒ神前ニ撒布ス  
ルモノナリ此ニ由テ「アルベナ」ノ辭ハ各自ノ本名ト<sup>ヲモ</sup>謂フ  
ベカラズ○

第一種ハ「子」ド「ル」ド「イツ」ニ於テ「アイセルコロイト」或「アイセルハ  
ト」ト云フ「ホ」グ「グ」イ「ツ」ニハ「アイセンカラウ」ト「アイセルヘル」ト「アイ  
セリス」ト云フ「ス」パ「ーン」スニ於テ「アルベナ」アルゲバラム「アラ



ニツイズニ放テハ「フルハイ子」「ベームス」ニ放テハ「フルベナ」「ギリ」  
ルニ放テ「ベリスステレラン」及「ベリスステレラン」タルトス「ト云フ  
此ハ直生ノモノト別ツナリ羅甸ニ「フルベナカ、レクタ」ト云フ某  
局ニ「フルベナ」ト云フ又「バスター」ル名ニ放テハ「ヒイラボタ子」  
及「ヘルバ、ザグミナリス」又「テリゴニラン」「ホーウニラン」「ヒルト  
ロドテス」ト云フ又「ア、ピユレイウス」ニ放テ「キリストタガリナセア」  
「コリュムビナ」「ヘルラリア」「エキユペラ」「マトリカリス」「ヘルキユラ  
ニア」トス然氏此「バスター」ル名ハ前ノモノヲ正ニキ名トス  
後ノモノハ前名ヨリハ顯著ナラザルナリ  
「フリニウス」第一種ヲ「エイセルコロイド」杜生「マニチケ」杜生「フルベナカ」杜生トス

ト名ク第二種ノ塌生スル者「ウエイフケ」杜生トス其書六五ノ  
六章ニ見タリ「エイセルコロイド」ニ二種アリ或ハ其葉ノ繁  
多ナルモノヲ牝生ト云ヒ其葉ノ僅少ナルヲ牡生ト云フ  
是其直生ノ者ハ葉少ク塌生ノ者ハ葉多キ故ナリ  
第二種者羅甸ニ「フルベナカ、シユピナ」即チ塌生ノ「エイセルコロイド」  
ナリ且前ニ云フ「フルベナカ」ヘミナニシテ「フリニウス」ノ牝生ト  
スルモノナリ「チラスコロテス」ノ「ヒイラボタ子」ト名クルモノアリ  
此第一種トハ全ク別トス「アピレイウス」モ亦此第二種ヲ別  
條ニ之ヲ記ス然氏「フリニウス」其書六五卷六章ニ説テ云  
或ハ「フルベナカ」ト「ヒイラボタ子」トヲ區別セズ此二種共ニ同



草ニシテ同功アルガ故ナリ」ガレニウス及パウリユス、アピギ  
子タモ皆然リト見ユ如何トナレバ「ガレニウスノ單味藥能ノ  
書ニ「ペリスステレヲシヨリ外ノモノヲ説カズロイラボタ子」ヲ  
説ク「ナシ又「パウリユスノ書ニモ「ペリスステレヲシ而ヒテ奉ク  
然氏「スカリボニウス」ラレギユスハ「ロイラボタ子」シ「ベトニカ」トス  
是ハ「フルベナ」ヲ「ベトニカ」ト記スルノ誤リ申リ来ル」此第二  
種塌生者「ギリケシニ「ペリスステレヲシヒ「アピユス」  
シユピナ」ト名ク或ハ「フルベナカアルテラ」又「コリユムビナシユピナ」  
ト云フ」此「アピユレイウス」ハ此次ノ羅甸名ニ於テ稱ス即  
チ「リキニア」「リユストラゴ」「シリタリス」「アルキペデユイム」「キリス

タカルリナセア」テメトリア」此他「ギリケバスタール」ニハ「チラス  
コリテス」ノ説ニ見レバ「カマレイコス」「シデリチス」「コウリチア」  
ベルセポニヲシ」等ノ名アリ

此草ヲ「ギリイユル」ニ「ペリスステレヲシ」ト名クルハ「チラスコリテス」  
ノ説ニハ「ドイ」ヘンノ好テ此草ニ就テ居ルガ故ナリト是故ニ  
羅甸ニ「コリユムビナ」トモ云フ或ハ「ドイフコイ」ト謂フ「アピユレ  
イウ」云鳩ノ喜好テ此草ヲ食フガ爲ナリト

**性功** 此草最も乾燥ノ功アリ且此ニ適宜ノ清涼ニ收斂  
スルノ功ヲ兼タリ

「アルキゲ子」云此草ノ「カラン」<sup>花状</sup>「頭痛ヲ治ス此病ニ「ローゼン



油及醋ニテ<sup>此草ヲ</sup>細研シテ頭ニ貼ス或ハ油ニ煮テ頭ヲ蒸慰  
ス頭痛ノ<sup>此</sup>起ニ因テ起ル者ニ尤モ良トス ○此草唯頭ノ  
痛ヲ甘解スルノミナラス猶髮ノ脱落ヲ固メ其<sup>コ</sup>イトフ  
ル<sup>ル</sup>イ<sup>ニ</sup>シ<sup>テ</sup>防ク<sup>コ</sup>ヲ<sup>ナ</sup>ス ○此草ノ根ヲ水ニテ煮テ之ヲ  
温メ口ニ含メハ齒痛ヲ治シ及齒ノ動搖ヲ固メ且口中  
ノ不潔瘡瘍ヲ治ス ○此草ヲ春キ或ハ根ヲ碎シ水ニ  
煮テ半ヲ減シ之ヲ五日續服スレバ腰痛奪急ヲ治ス  
○此草又腎及膀胱ノ石ヲ治スルニ用ユ又癩ノ初発ニ  
用テ之ヲ防禦ス即チ此ヲ蜜ニテ服シ或ハ<sup>液</sup>舍利<sup>別</sup>或ハ<sup>葉</sup>昆  
設<sup>布</sup>或ハ根ノ<sup>コ</sup>ン<sup>ヘ</sup>イ<sup>ト</sup>シ用ユ ○ハルレンデ<sup>シ</sup>イ<sup>キ</sup>テ<sup>シ</sup>

治スルニ用ヒ又四日<sup>此</sup>起<sup>ヲ</sup>驅除ス ○アエチウス云此草ヲ酒  
ニ煮テ服シテ<sup>此</sup>膝<sup>痛</sup>足<sup>痛</sup>ヲ治ス ○<sup>デ</sup>ラス<sup>コ</sup>リ<sup>テ</sup>ス云<sup>直</sup>生<sup>子</sup>  
セル<sup>コ</sup>ロ<sup>イ</sup>ト<sup>ノ</sup>葉ニ<sup>ア</sup>ゼ<sup>ン</sup>油及新鮮<sup>豚</sup>脂ヲ加ヘ子宮痛ニ貼  
シテ其痛ヲ甘解ス ○此草ニ<sup>酢</sup>ヲ加ヘ<sup>貼</sup>シテ<sup>ハ</sup>羅斯ノ<sup>煎</sup>煎<sup>ハ</sup>ロ<sup>ド</sup>ホ<sup>ント</sup>  
及他<sup>侵</sup>淫<sup>蔓</sup>延スルノ瘡瘍ヲ甘和消除ス ○此方亦能<sup>經</sup>久  
瘡瘍ノ<sup>腐</sup>敗<sup>レ</sup>進<sup>ヲ</sup>過<sup>止</sup>ス ○此草ヲ蜜ニ交エテ外貼シテ  
諸ノ新創及<sup>經</sup>久<sup>傷</sup>損瘡瘍ヲ瘥ス ○塌生<sup>子</sup>セル<sup>コ</sup>ロ<sup>イ</sup>ト<sup>ノ</sup>  
ノ根及葉ヲ酒ニテ用ヒ及外貼シテ蛇<sup>蝮</sup>ノ<sup>嚙</sup>螫セルヲ  
連ニ治ス ○此草ニ<sup>ウ</sup>イル<sup>ロ</sup>グ及古キ酒ヲ加ヘ早朝空腹  
ニ飲服スル四日許續服シテ<sup>黃</sup>疸ヲ治スルニ良功ヲ得 ○



此方又經久水様腫及焮腫ニ貼シテ之ヲ甘和シ治ス又高  
穢膿瘍ノ清除ス○此全草ヲ酒ニ煮テ咽中巴旦杏核ノ硬  
結硬皮コルス硬皮テシテ破ル一アリ口中ノ腐蝕瘡ヲ防クニ漱薬  
トシ用ユ一ダラスコリテ区ノ験試スル所ナリ○近世ノ本草家  
者多ク一此草ノ液若クハ煎汁ヲ傳染疫疾ニ飲シム  
ル一ヲ記ス然氏一其事一証考一ニテ信スルニ足ラズ之ヲ用  
ルモ全ク益ヲナヌ一ナシ蓋シ其言ニ云是鬼神ノ秘術ナ  
リト予ハ如此証偽ノ法ヲ用ユルヨリ他方ヲ以テ救治スルヲ  
勝レリトスルナリ

**他用**「アリニウス」云或ハ謂フ此草ヲ浸シタル水ヲガシキ客室ヨリ

タイドコロ 庖厨マデニマキナラス時ハ賓客ヲシテ悦樂セシムトナ  
ラスコリテ区モ亦此事ヲ説タリ○鳩「ドイヘン」ヲアサキ給引且一一  
処ニ集マラシムルニ此草甚タ便ナリ是「アピユレイウス」ノ此草  
ハ他草ヨリ「ドイヘン」ノ好テ食フト云フ為ナリ

**附考** 塌生「エイゼルコロイド」コリュシウスノ記スル所モノ又フルベナ

シユピナヒスバニカト名ク彼此ヲ「スパークニイン」ニ於テ見ル△而シテ  
其種ヲ「子デルランド」ニ種シテ能生スト魚モ花ヲ発スルニ至ラ  
ズ或ハ子ヲ熟スル一膏テアラス故ニ此邦ニハ得難シ是其根  
「スパークニイン」ニ於テモ此邦ニ於テモ冬ニ至レバ枯ルハ故ナリ又  
「ハプリニイン」ニテハ此草七八月ヲ以テ花ヲ一○一花ヲシウス一

△此トイハス  
ナリ



牝生 セイセルコロイト ハ ホーグドイフ ノ セイセンカラント。セイブリン  
ナリ是 エデル。バウケツトノ種 トス。○此草ノ牝牡兩種共ニ  
根ヲ湿地ニ移シ植レバ能ク長茂スルナリ此草ハ自然生  
地ヨリハ他ニ移スヲ好トス。○此草ノ葉ハ太抵 セイケレローフ  
ノ葉ヨリ小ニシテ ガマシテ 山ノ葉ヨリ大ナリ其花後ニ小扁  
囊ヲ着ク エーレシプレイス ノ如シ牝生ノ者ハ莖牝生ヨリ圓  
ク葉小ニシテ多ク枝芽ヲ一根ヨリ生ス其花モ牝生ヨリハ  
稠密ナリ **稱呼** 第一種ヲ羅甸ニ或ハ ベリア コリユバリス又  
ペリス テラシ、ウルチラス 又 ヘルバ サンゴイナリス 或ハ又 チリキサゴ  
ト名ク チールトイワ ニ於テ此兩種ヲ フルベ子 ト稱ス他ニ コ

モニス。フルベナ」又「サカラ、レクタ」ト稱ス「エンゲルス」ニ於テ「ヘルハ  
イ子」ト稱ス堀生者ヲ或ハ「キンキナリス」ト名ク「ローベル」ノ云フ  
小ナル「スパアン」セイセルコロイトハ羅甸ニ「サカラ、フルベナ」ヒスパニ  
カミノル」又「フルベナカ」シユピナコルニ「ト名ク「ローベル」云此草  
キリイル」ニ於テハ貴稱ヲ為ス即チ「ヒイラ」ノ如キ是神明 精神ノ  
ノ 各 ナリ蓋シ昔時ノ法徒吉凶事於テ神前ヲ清淨スルニ之ヲ  
用ユルヲ以テ具名ヲ貴クスルナリ **性功** 此草ノ「タラキイ」及「ギ  
リイ」テニノ外ニ多ク生植スルハ小兒ノ虫以藥ニ此ヲ与エテ功ア  
ルガ故ナリノ氣息短急喘息ヲ治シ又口中咽喉ノ疾ヲ  
治ス○枯消スル 病者 此草ノ乾キタル末ヲ用テ大功アルヲ見ル○



獠犬毒及ワールフレースヲ治スルニ此草ヲ創口ニ貼シ又小  
麦粒ヲ創口ニ挿ミ此ガ濕ヒ大ナルニ至リ此ヲ取テ患者  
ニ投テシテ試ムルニ此ヲ食セズ又他ノ麦ヲ食フレハ食セントス  
ルハ其危殆ヲ免ルノ徴ナリ○新金創ヲ治スルニ此草ノ葉  
ヲ「ボートル」ニテ春キ之ヲ創ニ貼ス○蛇咬及他毒虫傷ヲ治  
スルニ此草ノ枝ヲ酒ヲ以テ春碎シ此ヲ其傷処ノ腫テ口ナキモノニ  
貼スレハ其創孔ヲ閉クナリ其時此ヲ蜜ニテ温メ貼スレハ速ニ  
創ヲ癒ス○塌生ノモノ蛇毒及他毒虫咬傷ヲ治スルニ酒ニ  
煮テ内服外貼レテ或ハ牡生ノモノヨリ「膳」リトス○此葉一錢  
ウイローク五分ヲ古酒ヲ以テ四日毎空心ニ飲テ黄疽ヲ治ス

「ド、子ウスノ言ノ如シ○此他頭痛齒痛口丹惡瘡殊ニ皮ノ諸病  
痒」名「ドセル」イルトヒイル「メル」ク「チヘ」キ「ユ」フ「ヘ」ド「ソ」ラ「フ」ヘ「ド」此  
ヲ浴湯蒸湯ニ「キリ」セ「コ」ム及醋ノ水ニテ裂シ用ユ○此ヲ酒ニ煮テ  
内服ニテ肝及肺腎ノ閉塞ニ良ナリ○此草ノ蒸餾水ヲ六月ニ  
朝夕廿四モヲ飲テ黄疽ヲ治ス又諸ノ毒及疫氣傳染ヲ防  
ク○古ノ法徒此草ノ三節アル枝ヲ服スレバ三日熱ヲ治シ四節アル  
ハ四日熱ヲ治スルヲ稱ス或ハ又云「アリ」ニ「ウ」スノ言ニ「後」ハ「此」草「地」ヨリ  
梢ニ至テ三節アル莖葉ト共ニ用テ三日熱ヲ治シ四節ハ四日熱  
五節ハ五日熱ヲ治スルト○「ロ」ト「ル」記ス痴狂ノ巫ヤ云此草ハ奇特  
ノ功アリテ人ヲシテ悦樂セシメ厭惡スベキ事ト將來ノ災害ヲ防禦



スト如此等偽ノ言ハ信從スベカラス○ロベル又云此草直生スル  
者及他一二ノ草ノ直生ノ者第一第二第三第四ノ形アリト言フシ  
信ズベカラス又「ベトニイ」「カールライゲ」「ロース」「マリシ」「スワーガス」等モ  
亦然リ○此草ヲ蜜ニテ丹服シテ腎石痛ヲ治ス又癩ノ初ニ直シ  
○セキエ云此草諸藏ノ病ヲ治ス「セイテシ」肝及胸但「セイテシ」  
ロセハ肺ニ膿瘍アルナリ○「アピユレイウス」云此根ヲ項ニ掛  
テ能頸項ノキリル腫硬腫ヲ治ス○此ヲ春末ニ外貼シテ  
惡瘡「ウチセル」及耳邊ノ瘍ヲ治スルニ特功アリ○此液ニ酒盞水ヲ加  
置テ飲テ脉管硬結ヲ治ス他食ヲ食セズ連ニ治ス○夏至  
ニ此草ヲ春末ニ肝ノ痛アル人其入強キ者ハ五匙ヲ三日「シヨ」リテ

ノ良酒ヲ以テ服ス其強弱ニ準シ其量ヲ増減スベシ甚良ナリ  
○此根ヲ春末ニ良酒ニテ之ヲ飲服シテ結石腎痛ヲ治ス  
且尿管ヲ通ス○婦人此草ヲ煮タレ水ニテ洗浴シテ肌膚  
ヲ麗潔ニスルニ用ユ○「ガルベナ」葉一錢ナルテ五分「ギユシ」  
カ及没薬「モク」末ヲ加テ二十錢許ノ水ニテ飲服シテ肝脾  
膽ノ閉塞ヲ治スル良功アリ○「ド」子ウスノ教ニ「ハルシ」テ  
シキテヲ治スルニ此根ヲ碎片シ「ベウ」子ニ核ヲ加ヘ項ニ掛ケ又  
此末ヲ鼻ニ入及飲服ス○此根ヲ項ニ掛テ結核瘰ヲ治  
ス及他頸項ノ腫瘍ヲ治ス○此草ノ水ヲ手巾ニ蘸シ  
テ頭ニ置テ其ノ外傷「ウチ」腫痛ヲ治ス○此水ニテ眼ヲ洗テ



昏暗ヲ治シ視神ヲ強クス又胃ノ痛ニ良ナリ又婦人陰  
処ノ腫瘍ニ用ニ又舊創及骨創此ガ瘰癧腫様ナリトモ此ニ乾  
キタル<sup>ル</sup>「<sup>ル</sup>」<sup>ル</sup>セシ及女<sup>ノ</sup>「<sup>ル</sup>」<sup>ル</sup>テ<sup>シ</sup>ニ<sup>シ</sup>加ヘ用テ殊ニ功アリ○法徒者  
流ノ言ニ云此藥ヲ患者ニ用テ試ミニ問テ云如何アル患者答テ  
無恙ト云ハ其病治スベシ答テ不好ト云ニ應ニ好カルベシト云ハ其  
病死ニ至ルト尅モ可笑事ナリ○此草ノ説猶多シト産モ要用  
ナキノ<sup>ノ</sup>ハ此書ニ載セス

第三十五章

「<sup>ル</sup>」<sup>ル</sup>テ<sup>シ</sup> ヲフト「<sup>ル</sup>」<sup>ル</sup>テ<sup>シ</sup>「<sup>ル</sup>」<sup>ル</sup>テ<sup>シ</sup>「<sup>ル</sup>」<sup>ル</sup>テ<sup>シ</sup>

〔品類〕「<sup>ル</sup>」<sup>ル</sup>テ<sup>シ</sup>ニ種アリ其ハ「<sup>ル</sup>」<sup>ル</sup>テ<sup>シ</sup>「<sup>ル</sup>」<sup>ル</sup>テ<sup>シ</sup>「<sup>ル</sup>」<sup>ル</sup>テ<sup>シ</sup>「<sup>ル</sup>」<sup>ル</sup>テ<sup>シ</sup>  
レニナリ其ニハ「<sup>ル</sup>」<sup>ル</sup>テ<sup>シ</sup>ニナリ此ニ種各教品麥アリ此章  
ニ先ツ「<sup>ル</sup>」<sup>ル</sup>テ<sup>シ</sup>ヲ奉ク次章ニ「<sup>ル</sup>」<sup>ル</sup>テ<sup>シ</sup>ヲ記スベシ  
此「<sup>ル</sup>」<sup>ル</sup>テ<sup>シ</sup>ニ三品アリ其ニ品ハ大ニ具ハ「<sup>ル</sup>」<sup>ル</sup>テ<sup>シ</sup>ナリ

本草類

〔形状〕「<sup>ル</sup>」<sup>ル</sup>テ<sup>シ</sup>ニ是其大ナルモノニテ其莖粗糙ニシテ圓  
ク管ヲナス高サ一尺半許葉ハ滴ク周縁ニ銳尖ノ鋸齒アリ  
莖葉共ニ粗糙毛茸刺衝スベキアリテ纒ニ之ニ觸レハ大ニ痛痒  
シ皮ニ徹知セシメ或ハ粗糙不齊ノ小泡ヲ起シ或ハ赤色ヲ發ス  
莖ト葉ノ間即チ葉本ノ孔ヨリ蔓ヲ生ス粗糙ノ圓球「<sup>ル</sup>」<sup>ル</sup>テ<sup>シ</sup>  
ヨリ大ナリ其子ハ滑沢ニシテ亞麻仁ニ似テ此ヨリ小ニシテ圓シ



根ハ鬚アリ**第二**「子」テレンノ大ナル一種ハ莖葉第一種ノ如ク  
但或ハ此ヨリ高ク且多ク枝ヲ生ス此モ亦前ノ如ク刺衝焮也  
スルノ毛茸ヲ莖葉ニ被ルナリ其安ハ牙一種ヨリ小ニシテ球  
ヲ成サズ細長ニ葡萄状ノ楕圓ヲナス其後莖ニ沿ヒ枝ノ側  
葉ノ上ニ當テ着ク其根ハ多鬚ニシテ黄色土中彼此廣  
ク蔓延ス**第三**「子」テレンノ小ナル種ナリ其莖葉種子共全  
ク第二種ノ如ク但小ナル或ハ尤モ多枝其色ハ淡緑ナリ且其  
刺衝尤モ甚シ根ハ短ニシテ鬚ナシ

**出處**此諸種共ニ家ナキ地ニ生ス第一種ハ林中ニ生ス「子」テレンラ  
ニ上ニ於テモ或ハ見ナリ第二種ハ多ク常ニアリ園籬ノ邊

古キ塵塚及荒穢ノ地ニ生ス第三種モ亦古ノ如キ所又ハ園  
圃湿地ニモアリ

**時候**諸種皆夏ヲ至テアリ小ナル種ハ冬ヲモ堪ルナリ其實ハ  
七月八月ヲ以テ熟ス其枯涸シタルモ貯ツベシ

**稱呼**此草「キリール」ニ於テ「アカレイ」又「キニ」ト名ク其刺衝  
スル毛茸アルガ故ナリ又其嫩衝刺蝕ヲ以テ羅甸ニハ「フリチカ」  
「ホークドイツ」ニハ「子」ツセル「子」テレン「ドイツ」ニハ「子」ツテレン「イタリヤ」ニハ  
「フリチカ」「スペイン」ニハ「ホリチカ」「フランス」ニハ「フリチカ」  
「エシケル」  
ニハ「子」ツテレン「ベームス」ニハ  
ト名ク○**名義**「フリチカ」  
ノ諸ヨリ起ル「ア」ハ羅甸ノ焮也ヲ謂ナリ本草家ノ白アリ云ノ



フリチカハ嫩担ヨリ此名ヲ得タリ人之ニ觸レハ其手ヲ嫩  
衝スレバナリト○「子ルドイツ」ノ此草ニ名クモ亦此義ナリ  
即チ「<sup>燒灼</sup>ブラベンデ」ト云「<sup>燒灼</sup>ヘーデ」ト云或ハ「<sup>燒</sup>子ルン」子ツテレシト云是ナ  
リ○第一種ハ「子ルドイツ」ニ「ロームセ子ツテレシト云「フランソイス」  
ニ「ブリチイロマイ子」ト云羅甸ニ「フリチカロマナ」ト云「ホーグドイツ」  
ニ「<sup>燒</sup>ルセ子ツセシ」ト云羅甸「フリチカイタリカ」ト云「フシ子ルドイツ」  
ニ「<sup>燒</sup>イタリア」セ又「<sup>燒</sup>フレイム」子ツテレシト云「フナリ」是此種ハ其土ニ  
産セズ他邦ヨリ来リ見ル「<sup>燒</sup>稀ナル」ガ故ナリ但「<sup>燒</sup>草家園」ニ植テ  
奇觀トスルノニ或ハ此ヲ「フリチカマス」ト名ク「<sup>燒</sup>子ツテレ」ノ牡生  
シ「<sup>燒</sup>得」フ「<sup>燒</sup>チラス」コリテス「<sup>燒</sup>イル」<sup>野生</sup>「<sup>燒</sup>子ツテレシ」ト名ク「<sup>燒</sup>マリ」即チ「フリチカ

シルウエスチリス」此ハ尤モ粗糲洞ノ里キ葉アリ其每久「<sup>燒</sup>ロイン」サレト  
ノ如クコレヨリ小ナルナリ「<sup>燒</sup>プリニウス」ノ「<sup>燒</sup>イル」<sup>野生</sup>「<sup>燒</sup>子ツテレシ」<sup>野生</sup>「<sup>燒</sup>子ツテレシ」ウ  
フケシト名クルハ<sup>其書ハ一十五卷十五</sup>他種ヨリモ刺衝ノサキモノナリ○第  
二種ハ尋常「<sup>燒</sup>子ツテレ」ノ牡生ト名ク「<sup>燒</sup>野ナリ」羅甸「<sup>燒</sup>フリチカヘミナ」  
此ヲ第三種ト分ツベキ考ニ又「<sup>燒</sup>ゴロー」<sup>野生</sup>「<sup>燒</sup>子ツテレシ」<sup>野生</sup>「<sup>燒</sup>フリチカマヨル」ト  
謂フ此ニ第二種大ナル「<sup>燒</sup>子ツテレ」トス○第三種ハ「<sup>燒</sup>ブラバント」ニ於テ  
「<sup>燒</sup>ハイテ」<sup>野生</sup>「<sup>燒</sup>子ツテレシ」ト名ク「<sup>燒</sup>ホーグ」<sup>野生</sup>「<sup>燒</sup>ドイツ」<sup>野生</sup>「<sup>燒</sup>ハイテ」<sup>野生</sup>「<sup>燒</sup>子ツテレシ」ト名ク其ガ  
最モ嫩担シ貴ユルガ故ナリ羅甸ニ「<sup>燒</sup>フリチカ」<sup>野生</sup>「<sup>燒</sup>フレンス」<sup>野生</sup>「<sup>燒</sup>ニマ」ト  
謂フ其最モ嫩担スルノ義ナリ「<sup>燒</sup>プリニウス」ノ「<sup>燒</sup>カニ」<sup>野生</sup>「<sup>燒</sup>アル」<sup>野生</sup>「<sup>燒</sup>名クル」  
一種ハ「<sup>燒</sup>子ツテレ」アリ是應ニ最小ナル者トスベシ大ナル種トハ



思モハレザルナリ如何トナレバ彼カニイルテチツテ心ノ内ニ一種ノ  
カニアト稱スルアリ此ハ景モ酷烈ナリ其莖葉モ刺衝焮<sup>ヒ</sup>也  
其葉ニ銛齒<sup>ヒ</sup>扶裂アルナリ<sup>ハ</sup>故ナリ

**性**此草ノ性燥ナレ氏甚シキ温ニ非ズ纒ニ温ノ第一度ニ至ル  
其燄ハ純粹ナリ如何トナレバ其焮<sup>ヒ</sup>也<sup>ハ</sup>衝刺スルハ彼  
ノ劇<sup>ヒ</sup>也ニ因ルニ非ズ但其周圍ニ堅毛ノ刺棘ノ如キアル  
ガ為<sup>ル</sup>也是ヲ以テ皮膚ヲ刺<sup>ル</sup>也如何トナレバ之ヲ煮シハ緩  
柔ノモノトナリ刺衝スル<sup>ル</sup>アルトナシ是其毛育<sup>ル</sup>ノ堅銳  
ノ消除スルヲ以テナリ

**功能**此葉ヲ「ロムムスゲイテン」或「モウセレン」ト共ニ煮テ服

シテ大便ヲ和通ス「ヂヲスコリテス」云此草ノ清除ノ功アルニ因ル  
○又尿ヲ催進通利シ腎ノ結石ヲ馳出ス○此ヲ精麥ト  
共ニ若クハ大麦水ニテ煮テ胸ヲ清除スルノ良功アリ能具  
処ニ固着スルモノヲ出シ除カシム○此葉ヲ春キ液ヲ取テ鼻  
ニ入テ<sup>ハ</sup>衄血ヲ止ム○葉ノ液ヲ口ニ含漱シテ懸壅<sup>ヒ</sup>也<sup>ノ</sup>腫ヲ  
治スルニ良ナリ○此葉ヲ甘キ酒ニテ服スルハ房<sup>ノ</sup>怒ヲ起ス<sup>カ</sup>シ  
ニ<sup>ハ</sup>云此物ノ風氣質ヲ有ス<sup>ル</sup>故ナリト○此仁<sup>ハ</sup>胸中ノ粘  
液惡液ヲ清除シ解泄ス故ニ短氣<sup>ハ</sup>「<sup>キ</sup>ニ<sup>キ</sup>ウ<sup>ス</sup>」<sup>ト</sup>肺瘍<sup>ハ</sup>經冬  
服痛ニ壅ヲ加ヘ敷<sup>ク</sup>也<sup>シ</sup>ム○此仁又<sup>ハ</sup>「<sup>キ</sup>ウ<sup>ス</sup>」<sup>ト</sup>「<sup>ド</sup>ル<sup>レ</sup>テ<sup>ル</sup>ヘ<sup>ル</sup>」<sup>ト</sup>  
及「<sup>カ</sup>ム<sup>ベ</sup>ル<sup>ヌ</sup>」<sup>ト</sup>「<sup>ド</sup>イ<sup>ヘ</sup>ル<sup>ス</sup>」<sup>ト</sup>「<sup>ド</sup>イ<sup>ヘ</sup>ル<sup>ス</sup>」<sup>ト</sup>ノ毒ニ中ルヲ治レ又水銀毒ニ



因ル疾ヲ治ストコカレデ此ノ示ス所ナリ○プリミウスノ説ク所  
アホワロトリニス人名歟詔ラク此草「ボルセンコイ」ト云ル云レテ此ノ毒ヲ  
治シ又蛇蝎ノ咬螫毒ヲ治スト○此草ノ害アルハ唯皮ヲ刺  
衝焮痛スルノミ然氏經又ナラズ且肌痒セシムル外ナラズプリ  
ニウ区云此ヲ治スルニハ「シリ」ヘシ油ヲ用エルノ他ナシ且之ヲ皮上  
ニ搽スベシ

**附考**此草形状甚タ奇トスベシローセ子ツテ此ノ刺球ハ赤作  
ノ如キアリ或ハ莖赤色アリ根ノ赤色アリ此大ナル種ノ葉鋸齒小  
ナル者ヨリハ深カラズ其色黄或ハ紫ブロインロード此葉橋其實長ク下  
垂シ授ニスニ似テ小ナリ其莖或圓或方アリ大抵糙刺アリ

「ローセ子ツテ」此地ニ於テ或ハ林ニ生スルアリ多ク葎草家園ニ植  
ス又一種尋常大ナル者ハ「フリチカコムニス」ト云「フランソイス」ガラン  
テ「フリチイ」ト云「ホドグドイ」ニ「ブレ」チント子ツセルト稱ス此邦  
「ゴロ」テ子ツテ「シ」ト云「イタリ」アニスニ「フリチカ」ホルガレト云小ナル  
種ハ「ラ」デニ「フリチカ」ニルト云「フランソイス」ニ「ベ」チイテ「フリチイ」  
ト云○「子ツテ」性ハ顯熱トシテ温ナルベシ其刺衝焮熱ノ  
故ナリ然氏或謂ラク其中ニ清凉ノカシ藏スト其子ハ温燥  
第二度ニ至ル○「プリ」ニス記ス此葉ヲ舂キ古キ油或ハ「ベイ」ニ  
スモ一上ヲ加ヘ痛風ノ処ニ貼ス此方今其症良効アルヲ見ル  
○此葉ニ没薬ヲ加ヘ膏ノ如シ臍上ニ貼シ月経ヲ催通スルノ



功アリ猶葉ヲ没薬ト共ニ煮テ飲服スベシ○ロムセ子フテシ  
子ハ喘急ヲ治スルニ良ナリ後起坐スルニ水レバ呼吸スルニ能ハルニ  
用ユ○ロニデレチウス謂フ此子ハ大ナル功カアリ其粘稠閉塞ヲ  
通スルノシナラス猶之ヲ緩ニ駈出スカルダモ区ヌ功ノ如シ六ニ飲服  
用テシ○ト綠葉ヲ以テ子宮ノ脱垂ヲ復納スベシ○此子食物肉  
ノカキモノニ交加スベシ○胃ノ膨脹風氣ヲ治ス○プリミラ区記ス  
此子分シ蜜水ヲ以テ食後夜之ヲ服シテ容易ニ吐ヲナス○  
此葉ノ歌アリ婦人月経ヲ催通スルガ為アリ子モ亦甘ト酒ニテ  
服用シ功アリ○此葉ヲ舂末シ子ヲ加ヘ獭狗傷ニ貼シ又大  
潰瘍癌腫臭穢ノ膿瘍及ブルトスウエレニ耳瘍ハロチデト

名クルモノ等ニ良ナリ○此葉ニ油及蠟ヲ加ヘ膏トシ脾ノ硬  
結ニ外傳ス○或云此葉ヲ鼻中ニ刺セハ血ヲ殺ス杜氏外ヨ  
リ前頭ニ貼スレハ之ヲ止ム○此葉ノ大便ヲ通スルハ使生力ニ因ル  
其摩痒刺弱ノ如キハ通利ヲナサズ○此葉ノ癌腫惡瘡ニ  
使用ナリトス此ガ腐蝕スルヲナク乾燥末ヲ以テリ○根ヲ醋ニ  
テ舂キテ右ノ如キ症ニ傳貼スベシ又此ヲ乾膏トシ毛ヲ除キ清  
潔ニスルヲニ用ユフシロトムト名ク○此葉及塩油ヲ以テ作ル  
軟膏ヲ脊推及脚ノ凹處脉ノ凹處ニ摩擦シテ患者ノ寒慄  
振顫スルヲ拒ク又此葉ノ液ヲホプリルニカニ立テ脉上ニ  
貼シテ熱病ノ熾熱ヲ消ス○此子ノ蒸ニ氣鼻孔ノ閉塞ヲ用ル



○欬嗽ミテ吐痰スルハ其粘液ヲ泄出スルヨリ良方ナシヤ  
許ノ舍利別或テコクタイノベクトラールヲ以テ子ヲテル末「コロ子」  
貨銭ノ半分ヲ服用スベシ○此根ノ赤ヲ帶ルモノヲ末トシ鼻ニ  
入レハ血血ヲ止ム○此子ヲステインブレキ水或ハ「カ」フスルク  
ヲ以テ「ヒヨール」ノカンデイ「四」ヲ加ヘ服ミテ腎ノ結石ヲ破出  
ス○「子」ツテレニニサシク「ハイフ」ヒンゲルコロイ「上」葉ヲ交ヘ服用スル人  
其氣志寛緩ナルベシ能部ノ怯懼ノ意ヲ除ク故ナリ○此根  
ノ煎汁ニテ手ヲ洗ヘバカモ白ナルナリ且毛ノ生スルヲ防ク此  
ニテ洗タル後「モ」セニストロント「上」ヲ以テ摩揉シ温湯ニテ洗除スベシ  
○膝痛脚痛ヲ治スルニ此葉一握「エ」ブリユス葉ニ握合シ春テ

痛處ニ貼ス尤モ奇効アリ○七月此花ヲ蒸餾シタル水甚々  
前ニ謂フ疾ニ便良ナリ又鼻中息肉鼻痔ヲ治ス八月此葉ヲ  
蒸採スル水モ亦良ナリ○此子ヲ「マル」ヘ「ハイ」ト「共」ニ服シテ子  
宮口ヲ開キ婦人ヲシテ淫志ヲ除セシム又男子ノ腎ノ強カラズ  
ルモノ多ク用ユ○此莖ヲ碎破シ水ニ浸柔スレバ棉ノ麥トナル  
「コ」イン「ワ」ト「ヨ」リ緻密ナリ「イン」ゲイ「レ」「ゴ」ア「」及其近邊ヨリ送來ル  
徒氏「コ」イン「ワ」ト「上」ホド強カラズ久ク堪エズ○此草ト共ニ肉ヲ煮  
レハ甚々速ニ軟熟スルノ功アリ○或ハ鍊金術ニ其莖及根ノ  
赤色ナルヲ多ク用ユ○「ロ」ン「チ」ニニ冬ヲ「直」テ「即」ヲ「得」タシ「メ」ントス  
ルニ此乾葉ヲ他食ニ交ヘ食ハシム○皮シ侵サラレム



ニハ此葉ニ油及塩ヲ加タル軟膏丸モ自<sup>レ</sup>ラ<sup>レ</sup>○此草ノ利觸ニ  
在スル疱ニハローセン油ヲレイシ油ヲ其処ニ搗<sup>レ</sup>ベシ<sup>レ</sup>ギリケニニ  
於テハ蜀葵葉汁ヲ用ユ○或云此葉ヲ患者ノ尿中ニ置テ  
具葉痿萎セズ緑色ナルハ死スルヲ示シ若此ガ痿萎スルハ死ハ  
スト是可笑ノヲミシテ做スベキノヲニ非ズ

第三十六章

ト<sup>レ</sup>ヘ子<sup>レ</sup>テ<sup>レ</sup>シ

**品**麦「子<sup>レ</sup>テ<sup>レ</sup>シ」ノ類ニ糙刺ナキモノアリト<sup>レ</sup>ヘ<sup>レ</sup>或ハト<sup>レ</sup>ド<sup>レ</sup>チツ  
ラ<sup>レ</sup>シト名ク此ニ數種アリ或ハ葉ノ異状或ハ臭ノ有無微甚

ニ因テ區別スルヲ下條ニ奉ルガ如シ

**形状**第一種「ト<sup>レ</sup>ヘ子<sup>レ</sup>ツテ<sup>レ</sup>シ」ハ莖直生シ方形ニシテ一尺許ノ  
高サ一尺半ニ至ルヲ稀ナリ大抵根ヨリ三四莖ヲ生ス葉ハペ  
テ子ツテ<sup>レ</sup>シノ葉ト甚タ差ナク周縁鋸歯アリ然氏刺衝スルヲ  
ナシ但軟ナル毛茸アリ莖ノ周圍葉同ニ花ヲ着ク「ウエル」ニ様  
ニシテ小帽小兜ニ似タリ其色多ク白或黄或赤紫ヲ帯ルア  
リ根ハ<sup>多</sup>一<sup>多</sup>處ニ聚リ掛ク**第二種**ハ其莖ノ高サ形共ニ前ノ如ク  
但葉少シク小ニシテ差<sup>ヤ</sup>圓シ其花ハ黄色或帯赤ナリ此種ハ  
甚タ強キ臭気アリ**第三種**ハ其葉第一種ヨリ大ニシテ  
其莖或ハ一尺半ニ及フ方形其稍及<sup>ル</sup>上<sup>面</sup>「ボ<sup>レ</sup>ル<sup>テ</sup>」或ハ

續新  
フトワコ



「フラーウ」ヒツレニ似テ其状美ナリ又  
ノ如ク見エ其花莖ニ沿テ登ス金黄色ナリ  
前ノ種麦ヨリ肥大ニシテ節アリテ旁枝ヲ多ク生ス或ハ一尺  
半ノ高サニ至ル其葉ハ鋸齒アリ第一種ニ似テ少シク大ナリ莖ヲ  
繞テ圓ニシ刺棘アル「ウルクニス」ツフ「リングステ」ニシ着テ此ヨリ  
花ヲ登ス第一種ヨリ大ナリ其色或ハ白ニシテ織点汚ナリ  
或ハ紫紫或ハベルクセノ細点アリ或ハ半紫半黄アリ  
或ハ全黄色アリ根ハ鬚ヲ聚メ掛ク

**出処** 此草ハ園籬道路或ハ家アリシ跡又ハ思ヒヨラサル園  
圃中ニ生ス第一第二ノ種ハ古ノ如キ処ニ多ク生ス第三種ハ「イ

ストレイキ」ホーヘン」及其近傍ノ邦ニ多クアリ第四種ハ澤或濕  
地ニ生シ「ホルラント」ニ多ク産ス

**時候** 此草ハ夏ヲ直テ花ヲ登ス

**稱呼** 此草「子」ドイツニ常ニ「ドーヘ」子ツテレント謂フ「ホーグドイツ」  
ニハ「トード」子ツセル又「ターブ」子ツセルト名ク「スパーンセ」ニハ「ホルゲガ」  
ミユルタト名ク「イタリア」ニハ「シルチカモルタ」ト名ク「フランス」ニハ  
「シリチイモル」ト名ク「羅甸」ニハ「フリチカイ」子ルト稱ス或ハ「フリチカ」  
モルト「トモ」云フ「フリウス」云子ツテレント「斐」ニ燃也ナラサルモノヲ「ラ」  
ミユム「プリモム」ト名クト **第一種** ヲ「羅甸」ニ「フリチカイ」子ルス「フリマ」ト  
名ク或云「ラミユム」フリモム「即チ此第一種」ト稱ス **第二種** ハ「羅甸」



ニ「フリチカイ子ルスアルテラ」ト名ク「子ール」ニハ「テロ」デ「ロ」デ「ヨ」フト  
スチンケンデ「ドー」ヘ「子ツテレ」ニト云此種ハ又「キリーケ」ニ「ガ」リ「ラ」プ「レ」ス又  
「ガ」レ「シ」ブ「ド」ロ「ニ」ト名ケ「羅甸」ニ「フリチカラベ」ト名クルモノト同シト  
見ユ○又別ニ「ゲ」ラ「ス」コ「リ」デ「ス」ノ記スル所ノ「ガ」リ「ラ」プ「レ」ス「ハ」リ此ハ  
小ナル灌木様ノモノニテ「莖葉」ヲ「ツテレ」ニニ似テ但其葉軟ニシテ  
手ヲ以テ之ヲ揉スレバ甚タ惡臭アリ其花小ニシテ紫色ナリ  
是ハ第二種ト甚タ相似タルモノト見ユ**第三種**ハ「羅甸」ニ「フリチカ  
イ子ルステルチカ」ト名ク或ハ「ラ」ミ「ユ」リ「ユ」テ「ラ」フ「ロ」レ「ト」モ云フ「チ  
ル」ド「イ」ウ「ニ」之ヲ第三種「ドー」ヘ「子ツテレ」ニ又「黃花」ノ「ドー」ヘ「子ツテレ」ニト云  
**第四種**ハ「羅甸」ニ「フリチカイ子ルスアルタ」ト名ク**第四種**「ドー」ヘ

子ツテレニナリ

**性**「ドー」ヘ「子ツテレ」ニノ性功ハ「ドー」テ「子ツテレ」ニト同シ或謂ラク其  
性彼ヨリ燥温ナリト

**功能**「ゲ」ラ「ス」コ「リ」デ「ス」云葉莖子及其液ハ堅硬ヲ軟化スルノ功ア  
リ諸ノ結塊キリーレ「キリーレ」ニ「ブ」ル「ト」ズ「ウ」ル「ル」及他腫ヲ消シ分利シ猶  
癌腫耳後腫ニ良ナリ此ヲ傳貼劑「琴布」トシ温ミシテ二日間  
之ヲ置クベシ又水ニ煮テ莖煎シ浴洗シテ良ナリ○葉及子  
ヲ塩ヲ加テ舂碎シ外貼シテ腐蝕瘡癌腫腐穢侵蝕スル  
ニ尤モ良ナリ○「ガ」リ「ニ」ウ「ス」ノ「ガ」リ「ラ」プ「レ」スニ於テ記ス此葉及莖  
硬結及癌ヲ治スルニ醋ヲ加ヘ舂テ其ニカス又結塊腫ニ用ユ



耳後腫ヲ消散分利シ又創及<sup>惡瘡</sup>セ<sup>レ</sup>此液若クハ葉ノ煎  
汁<sup>ト</sup>蒸浴ス又腐蝕瘡癰腫ノ腫ヲ治ス○又アリニウス  
ヲ<sup>ミ</sup>ユ<sup>ム</sup>ノ條ニ記シテ云此子<sup>塩ヲ以テ</sup>春碎シ諸<sup>隔皮傷</sup>「ゲブレ<sup>チ</sup>ツテ」<sup>燒傷</sup>「フル<sup>チ</sup>ラシ<sup>テ</sup>」及創傷并ニ又結節腫及痛  
風ノ脚ニ在モノニ良トス○近時ノ本草家ノ考ニ云此草ノ  
白花婦人ノ帶下<sup>イッラスト</sup>ヲ治スト或人其白花ヲ以テ「コンセルフ」ト作り  
砂糖ヲ加ヘ日々之ヲ服セシメテ全ク治スルニ至ル

**附考** 諸草ノ區別ニ於テ「ドーヘ子ツテ」ニ似タルモノ最も多シ  
而シテ諸家種々ノ名稱ヲナスナリ如何トナレバ或ハ之ヲ「カレラア  
シ」ノ種々ニ數ヘ入レ或ハ之ヲ「コデリキス」ニ<sup>イ</sup>等<sup>イ</sup>ヘ奉ケ或ハ

之ヲ「メリウセ」ノ種ニ附屬スル等ノ故ナリ博學ノ「カロリユスコ  
ル」ニウスノ書<sup>イ</sup>四卷二十三章ニ幾多ノ種々ノ異草アリ其内ニ  
「アリニウスノ」<sup>イ</sup>「ラミユム」ト殆ント相近似セル所アリ○此草五月  
ヨリ花ヲ發シテ夏ヲ至テ盛ナリ○羅甸ニ又「アラノニユム」及「ア  
ノニユム」ノ名アレ氏「ラミユム」ノ名最も顯ハル此草ノ黄花ナル者ヲ  
「イタリア」ニト名ケ白花ナル者ヲ「アルカンゲリカ  
フロレアルボ」ト名ケ○「ドーヘ子ツテ」ニノ異種<sup>イ</sup>亦前ニ云「コリユシウス」  
ノ書ヨリ此ニ引ベシ此ヲ「ドーヘ子ウス」ノ記スル所ニ校スレハ要ナシト  
<sup>イ</sup>「イ」ニ<sup>イ</sup>附録ス○**第一**「アーストレイキ」<sup>イ</sup>「ラミユム」<sup>イ</sup>此ハト、子ウスノ  
謂フ第三種ノ品ト見ユ其莖一尺或ハ此<sup>イ</sup>高ク方形粗糙毛茸



ドーヘチウテレンノ如ク此ニ其間疎隔ニ兩葉<sup>葉</sup>生シ諸種ノ子ウテ  
レン<sup>葉</sup>カ如シ其葉ノリウセノ葉ノ如ク皺縮シ懸緑滑沢其  
味少レ辛ニ其各節葉同ニ花ヲ生スル一三或四花ヲ簇<sup>アツ</sup>メ  
一方ニ掛クドーヘチウテレンノ花ニ似テ臭十ク夫ヨリ大ニシテ<sup>花</sup>帽  
状ヲナサズ唯下唇ヲ前ニ向テ<sup>花</sup>ル<sup>下唇</sup>ノ<sup>其</sup>辨<sup>他</sup>ノ花辨ヨリ  
ハ大ニ具色ハ或白或淡紫其苞ハ廣ク淡緑色  
其内ニ里ヲ帯ヒ均等ナラザル仁ヲ入ル根ハ肥テ節アリ多ク鬚  
ヲ着ク毎年新莖ヲ生スル一他チウテレンノ葉ノ如シ五月ニ花ノ開  
キ六月實ヲ熟ス此草「ライステン」ニ多ク或ハ「ホグドイウ」ニモアリ  
①「カウライユン」ニ於テ此草ノ白花ノモノ甚タ多シ他品ハ絶テ無シ

③此種ニ於テ「コロシウス」「ライスレイキ」ニ猶一種ノ異品アルヲ記ス其  
種前ニ所謂ノモノト多ク別ナラズ唯其莖弱脆ニシテ其數ハ  
多ク生シ女シク狭キ葉アルモノナリ○此他「ドーヘチウテレン」ノ種  
麥ニ「ビュクシウス」及「タラキエス」ノメリツスヲ「ペイルロ」ト名クルマリ  
然レ其説正シカラス「イウセ」ノ記ニ明ニス○<sup>第</sup>ニ異種ノ「ライスト  
レイクス」ヲ「ユム」アリ「コロシウス」考ヲ所ハ又「ライユム」ノ麥ニシテ  
又「ガレウプシス」ノ種麥ト是々相麥ス其草圓様ノ葉アリテ子  
ツテレニノ葉ト全ク同シク唯此ヨリ大ニシテ軟毛茸アリ脂粘アツテ  
露<sup>露</sup>ハ<sup>以</sup>ルガ如ク其嫩葉ノ時ニ鋸齒アリ長キ葉柄ニ着ク其  
翌年ニ於テ一莖ヲ生ス六稜或方形様<sup>葉</sup>テ柔毛茸アリ其莖



節ニ葉ヲ生ス大抵相對シ或ハ二葉或ハ三葉アリ其初根ヨリ  
生ルノ葉ヨリ小ニシテ其柄短シ此莖ヨリ二三ノ小枝一寸許ナ  
細ク硬ク毛茸アルヲ生シ此ニ<sup>花</sup>或五花ヲ着ク其花ハ内空ニシテ  
初ヨリサシク哆開シ小唇ヲ翫シ細針ノ<sup>シ</sup>被ルモノヲ抽  
出ス其色ハ<sup>淡蒼</sup>蒼ナリ花後苞ヲ結フ<sup>球</sup>フ<sup>ア</sup>ラ<sup>ス</sup>ノ如ク猶<sup>テ</sup>  
スコロプユラリア即チスベ<sup>イ</sup>コロ<sup>イ</sup>トニモ似<sup>テ</sup>其前尖レリ此内ニ  
細黒子ヲ滿ク根ハ子ツレ<sup>シ</sup>ノ如ク多ク蔓延ス此ハ五月ニ花  
サキ六月ニ子ヲ熟ス<sup>○</sup>第<sup>三</sup>ハ甚タ美麗ニシテ常ノ子ツレ<sup>シ</sup>ト  
相似テ一<sup>根</sup>ヨリ多莖ヲ生ヌ其高サ一尺許赤ク方形ニ多節ア  
リ此ニ兩葉對生シ<sup>ス</sup>ケン<sup>ド</sup>ドー<sup>ヘ</sup>子ツレ<sup>シ</sup>ノ葉似テ猶多ク<sup>シ</sup>シ<sup>ル</sup>

ニコトニボ  
模屈セルヲ云  
交ラ隆未<sup>ニ</sup>世<sup>ニ</sup>  
ヲ<sup>頂</sup>ナリ

ハ<sup>二</sup>又<sup>ア</sup>ード<sup>ハ</sup>イ<sup>ル</sup>ニ似タリ其間ニ三四若クハ五ノ<sup>苞</sup>ホイスケ<sup>シ</sup>ス<sup>ト</sup>ヲ  
生シ花ヲ<sup>發</sup>ス<sup>ヲ</sup>シ<sup>ン</sup>デル<sup>ハ</sup>ハ<sup>ノ</sup>如ク哆開シテ兜帽ナク<sup>唯</sup>闊ク<sup>空</sup>  
隆セル<sup>瓣</sup>ナリ其色ハ<sup>青</sup>フ<sup>ラ</sup>イ<sup>ウ</sup>白紫ヲ雜ヌ<sup>○</sup>第<sup>四</sup>ハ<sup>ゲ</sup>ツ<sup>ス</sup>コ  
リ<sup>テ</sup>ス<sup>ノ</sup>直生ガ<sup>レ</sup>ツ<sup>ア</sup>シ<sup>ス</sup>ニシテコロ<sup>シ</sup>ウス<sup>ガ</sup>ゲ<sup>ツ</sup>ス<sup>コ</sup>リ<sup>テ</sup>ス<sup>ノ</sup>カリ<sup>シ</sup>ア<sup>シ</sup>ス  
ガ<sup>レ</sup>ツ<sup>ブ</sup>ド<sup>ロ</sup>ニト名クルモノナリ此ハ鬚根アリテ年々ニ長大ニナリ此ヨリ  
方莖ノ小枝ヲ多ク生シ此ニ葉ヲ對生シ其柄長ク子ツレ<sup>シ</sup>ノ  
葉ノ如ク初メ之ヲ見レハ毛茸アレ<sup>凡</sup>刺<sup>銜</sup>セズ<sup>嫩</sup>也<sup>セ</sup>ズ<sup>其</sup>枝  
ノ尖穂ノ如クナリ其周圍ニ五或ハ六ノ<sup>葉</sup>ツ<sup>ル</sup>ウ<sup>エ</sup>此<sup>ノ</sup>様<sup>ノ</sup>ホ<sup>イ</sup>ス<sup>ケ</sup>ン<sup>ス</sup>  
ノ<sup>五</sup>葉<sup>ノ</sup>集<sup>メ</sup>生<sup>シ</sup>夫<sup>ヨ</sup>リ花ヲ<sup>發</sup>ス細長ニシテ<sup>ト</sup>ドー<sup>ヘ</sup>子ツレ<sup>シ</sup>  
ノ如ク此ヨリ小ナリ其色ハ<sup>藍</sup>紫ニシテ其<sup>葉</sup>下<sup>ス</sup>ル<sup>唇</sup>ニ白線條



シ頭ハス其苞中ニ四子アリ熟スレハ黒シ此全草不好ノ臭アリ  
早溼ノ地ニ生スルハ殊ニ甚シ風爽ノ地ニ生スルハ甚ク臭ナラス此ハ  
六月七月ニ花ヲ發ス○**第五**最大ナルジーステンレイキセ ガレラフレ区  
此モ亦コロシウスノ載スル所ナリ然レ之ヲ「ガレラフレ」マキシマ。ハンニカ  
ト名ク此ハ一尺半許ノ莖或ハ猶高ク肥テ方形根ニ近キ所ハ少シク  
赤ヲ帯ヒ多節ナリ此ヨリ兩葉對生シ「コウテレン」ノ葉ニ似テ鋸  
齒アリ然レ夫ヨリ大ニシテ或ハ一掌ヨリ大ナリ毛茸アリ刺衝セズ  
其莖ノ上ヨリ上ニ每節周圍或六花或八花或十花ヲ着ク然レ  
此が一育ナラス漸次ニ花ヲ用クナリ其花「ド」ノ子ツテレンヨリ大ニシテ  
暗赤色ニシテ殆ト此糸色ナリ此花ノ下唇其縁<sup>ヘリ</sup>破裂シ又兩分シ

周縁細鬚アリ中心<sup>ニ</sup>白ク紫ノ線條ヲ引ク四<sup>ハ</sup>アイケニスト  
一<sup>心葉</sup>鏡<sup>ノ葉</sup>ノ其帽ノ下ニ隱クス其臭佳ナラス全草亦同シ人手  
ニ之ヲ揉スレハ甚ク臭シ其味ハ苦シ此花ノ落ル後<sup>ニ</sup>扶<sup>ニ</sup>裂<sup>ル</sup>セル苞<sup>ニ</sup>  
ニ四子ヲ入ル其子「モリユカ」ニ似タリ根ハ太クニシテ鬚アリ冬<sup>ニ</sup>シテ  
年毎ニ新葉ヲ生ス此ハ「シスレイ」ニ於テ五月ニ花ヲ發ス○ホ  
「ド」ノ裂煉家ニ於テ此「ド」ノ子ツテレンノ諸種ヲ莖<sup>ニ</sup>餽<sup>シ</sup>煎<sup>キ</sup>煎<sup>キ</sup>  
塩ヲ裂シ及他ノ製煉ニ用ユ而シテ此ヲ「グワサ」又「コンヒリイ」<sup>ニ</sup>「デグ  
レイ」<sup>ニ</sup>用ユ所ノ諸疾ニ要用アルヲ考定ス是故ニ此功能ヲ詳ニ知ラ  
ン欲セバ「グワサ」ノ條及其附考ニ於テ記載スルヲ見ヨ



丁

丁

7

丁



10 202-228



